分に教育に從はしむることを得るからである。尤も此の點について
も我が國は除外國となつたけれども、然しいつまでも除外國として
居ることは自他ともに許さない。除外國とは名譽の稱號ではなく、
文化の低いことを示す不名譽の稱號であることを忘れてはならぬ。
吾人は一日も速に此の除外から脫して、通常國として規定に加入す
るやうにせねばならぬと共に、十四歳までを教育に從はしむることと
にしなければならぬ。十四歳まで教育に從はしむることは、卽ち從
來より二年延長して、八年の義務教育を實施することとなるのであ
る。

教育の效果と年齡

義務教育年限の延長の理由として、更に考へられることは教育の
效果と年齡との關係に基く考察である。教育は何れの年齡に於ても
極めて大切ではあるが、その效果の著しい點から云つても、又必要
の多い點から云つても、青年期に於けるそれほど大切なものは少な
いであらう。青年期と云つても、人によつて時期の分け方が違ふが、
大體十三四歳頃から十八歳位迄の間のことである。此の時期の心理
は特色が著しくて、教育上からいつて一番大切な時である。然るに
六ヶ年の義務教育では、將に之から青年期に入らうとするものを、
折角教育しかけた、開拓しかけた尊い原野をそのまゝ見放して棄て
てしまふのである。まことに惜しいことである。若しその頃二三年
引つゞいて、一層深く高い教育を施して置いたなら、やがて賢いも
のは自ら原野を開拓して行くことも出來るであらう。然るに六ヶ年
の義務教育では、到底彼等の自覺の基礎や興味を造るべく、餘りに
短く且つ餘りに幼な過ぎる。青年期全部を教育的支配の下に置くこ
とは誠に望ましいことであつて、補習教育は此の點について考究さ
れなければならぬものであるが、せめて義務教育に於てその青年期
の初期だけでも有效なる教育を施して、後の自學研究の端緒を開い

青年期の教育

て置いてやることが必要である。此の點からも義務教育の延長を切望してやまない。

煩雜なる國語國字

更に義務教育を延長しなければならぬ大なる理由が尙一つ存して居る。それは我が國語國字の複雜困難なる事である。凡そ世界に於て我が國ほど國語國字の煩雜なる國は少なからう。同一のものについても數種の言語を有する如き、又文字にしても片假名、平假名、變體假名、更に其上に數千の漢字といふ怪物を有して居る。小學兒童はこれ等の國語や國字を學ぶためにどれだけ重い負擔をして居るか分らぬ。これ等の負擔のために、他の有用なる知德の教養が減少されることは自然の結果である。同じ程度の教育を受けるとしても、歐米の兒童が之に費す年限と、我が國の兒童が之に費す年限とは著しい相違を有しなければならぬ。外國語の中に於ても、綴りが不規則で發音が困難である英語は、獨逸語に比してその教育的效果を減少することが少くないと云はれて居る。即ち獨逸の小學校に於て六年半かゝるものが、英米に於ては八年かゝると英米の教育學者によつて說かれて居る。單に綴りが不規則だといふだけで八年間に一年半遲れるといふのであるから、我が國の義務教育が歐米のものに比べてどれ位遲れるかといふことは決して想像に難くない。日本の六年間の教育は、獨逸の小學校の六年間の教育の五分の一であり、英米の小學校六年間の四分の一であるといはれて居る。此等によつて國語國字問題は、教育上から見ても頗る重大な問題となるのである

獨逸の六年半と英米の八年

が、それについては更に後節に述べるとして、兎に角かくの如く國語國字の爲に教育の效果を減少するのであるから、同じ八年の義務教育であつても餘程遲れねばならない我が國が、而も今に至るも尙僅に六年の義務教育を實施して居るのであるから、其の國民の一般教養の程度が如何に低く遲れて居るかは明かであらう。實に此の點

から考へて見ても、困難煩雑なる國語國字を有する我が國に於ては、歐米に比べて數倍の年限を義務教育としても、尚對等にしかなれないであらう。義務教育年限の延長は、此の理由唯一つによつても十分に主張される位である。

議論の時代は過ぎた

以上五つの理由を擧げて義務教育年限延長の急務であることを論いたのであるが、その何れの一つをとりても延長の有力なる理由でないものはない。而して此等の理由については國民誰一人として不同意のものはあるまいと思ふ。最早必要不必要を論ずるの時は過ぎて居る。一日を爭ふ實行の問題である。何故國民一般が輿論として此の主張をしないのであらうか。直接自己の利害に關係しないからとて、決して普通選擧や勞働問題の後に放つて置くべき問題ではない。むしろそれ等の問題よりは先に解決せられなければならぬ問題であることが分らぬのであらうか。吾人は一日も速に之が實施せられることを望んでやまないのである。

第三節　補習教育の普及と改善

小學教育と實生活

戰後に於て民衆の教育が最も大切であることについては既に述べた通りであるが、そのためには義務教育年限の延長と並んで、此の補習教育の普及及び改善は極めて緊要なことである。殊に從來の小學教育を受けたゞけでは、世の中の實際生活に入るだけの素養ができてゐない。小學教育を終つて中等、高等或は專門の教育を進んで受けるものはよいけれども、此等は國民として、數の上からいへば極少數であつて、大部分のものは小學教育を終つたゞけで實際生活に入るのである。そこで此等大多數のものに向つて、實際生活に役立つ教育を十分に授けるといふことは、國民の實力を向上せしめる上から考へて、まことに必要なことゝなつて來る。特に戰後に於て

實業立國主義の趨勢の盛である時、我が國も亦世界の經濟戰の敗者となるには忍びない。産業の勃興を計り、經濟の進歩をはかることは、國家として、極めて重要なことである。だから特に此の實業補習教育の普及は、目下の緊急事といはねばならぬのである。殊に我が國では、他の教育が進んで居る割合に、實業補習教育が頗る遲れて居る。獨逸の如きは、戰前に於てすでに補習教育を强制的に課して居つた所もあつた位で、又英國の如きは、戰後に於て補習教育をもつて義務教育とするの制を斷行した。そして夜間ではなく晝間に一定の時間の教育を授けることゝした。佛蘭西などに於ても、遠からず義務制度にしようとして居る。然るに我が國に於ては、學校の看板だけは相當にあるけれども、少しも其の效果は擧つてゐないといつてよい位不完全なものである。尙小學校の義務教育を終つたものは、その年齢の上からいつて、今からやうやく青年期に入らうとする所のものである。

後れたる補習教育

小學校の卒業生は、その身體上からいつても、品性の上からいつても、又知識の上からいつても、まだ固まつてゐるとは云はれぬ。こゝ數年の指導が極めて大切なのである。然るに小學校にある間は相當なる指導や薫陶を受けて居るからよいようなものゝ、小學校を終ると直に複雜な實社會に投入れられるので誘惑や危險にとりつかれることも尠くないのである。かういふ點からいつても、小學校を終つたものをそのまゝ社會の中に放任せずに、幾分なりとも有效なる指導や薫陶を與へて、教育上最も大切なる青年期を善導することにせねばならぬ。そこで補習教育は、小學教育を終つたものに、小學校に於て學修せるものの復習をして、其の學修を一層確實有效にすることゝ、更に實業卽ち商業農業工業等その生徒に最も適切なる知識技藝を修めさせるといふことゝは、その重なる仕事となつて來なければならぬのである。

小學卒業後の危險

補習教育の目的

女子の補習教育

從來の教育は、大體からいへば男子が多く之を占有して居つて、女子は十分に之に與かることができなかつたといつてよからう。殊に中等教育、實業教育、高等教育に至つては特にそれが甚しい。最近に於て漸次女子教育の勃興を見るに至つたのは誠に喜ばしいことであるが、然しまだ〳〵その差異が甚だしい。近時高等女學校の數が段々と增加して來ては居るが、高等教育に至つては極めて寂しいものである。兎に角女子教育が近時中等高等と漸次盛になりつゝあるとしても、それは數の上からいへば極々少數のものゝことであつて、國民としての女子の殆んどすべてのものは、やはり小學教育を終つたまゝのものであると云はねばならぬ。然しながら女子だからとて決して教育程度が低くてよいといふことはない。やはり男子と同樣に、同じく國民の一人として國家の發展に關係するものである。勿論男子と比べて、其の就く仕事は幾分異なるものがあるであらうが、然し妻として、母として、又は職業婦人として、その務を盡す上から云つて、少しでも高い教養を必要とすることは變りはない。だから女子と雖、やはり男子と同樣補習教育を普及せしめることは必要なことである。歐米に於ては男子は勿論、女子の補習教育さへ相當な發達をして居るのに、我が國に於ては未だ女子の補習教育どころではない、男子のそれさへ十分でないのである。是非とも速に男子にも女子にも補習教育を普及せしめることにしなければならぬ。

補習教育の現況

我が國の實業補習學校は數の上から見れば決して少いといふほどではない。卽ち實業補習學校といふ名稱をもつてゐる學校數が一萬近くあり、その中で農業補習學校といふものだけ數へても約六千以上に達して居る。だから數の上や看板の上から見れば、かなり普及して居るとも考へられぬことはない。然しながらその實際の成績はどうかといふことを考へて見ると、まことに有名無實のものが少く

ないので、殘念ながらその成績は不十分なものといはねばならぬ。それ故に今後の問題としては一方更に補習學校を新設するとゝもに、一方特に必要なことは、此等の實業補習學校の内容をいかにして充實せしめ改善せしめるかといふことである。これに最も力を入れなければならぬ。而して補習學校の内容を充實し改善するためには、

内容の充實改善

種々のことをしなければならないであらうが、特に大切なことは、此の實業補習學校の趣旨といふものを一般の父兄及び生徒達に徹底せしめることである。すでに義務教育を終つて拘束のない社會に出て居る少年青年を更に一定の拘束のもとに集めるのであるから、彼等をしてその眞の趣旨を理解せしめなければ、なか〳〵進んで出て來ないであらう。父兄達にしても、それ〴〵の家事に手傳はせて相當の利便を得て居るのであるから、その效果について餘程の信念がなければ、なか〳〵出さないであらう。勿論歐米の如く晝間に教育

趣旨を徹底せしめよ

することは、我が國の今日ではまだ〳〵行はれさうもないので、夜間でも、或は時によつては午後などを用ひてもよいであらうが、兎に角補習教育の趣旨をよく徹底せしめなければ、其の成績を擧げることは困難である。趣旨といふのは即ち小學教育の補習を兼ねて、更にその基礎教育に結合して實業的陶冶を施すといふことである。小學教育はそのまゝ放つて置く時は、數年の間に大抵忘れてしまふものである。此等の事實は徴兵檢査の際に於ける學術試驗の結果に見ても明である。是非小學卒業後その反覆復習をなす必要が切に考へられる。而して單に小學教育の復習をするばかりでなく、此等の基礎教育を活用して實際生活と結合するところの教育をもして行かねばならぬ。而して此の際それが實業的陶冶と結合する時、兩者の間には眞に有機的積極的關係を生じて、兩者の發達を益々助長するであらう。即ち基礎教育は初めて現實の生活に利用せられ、又實業

教育は斷片的知識に止まらず、初めて基礎を有する系統的な鞏固な知能となるであらう。實に補習教育の完全に行はれることによつて、初めて國民としての資格を有するに至ると考へてよからう。

國民教育の完成

次に補習教育の内容を充實させる一つの方法として、その土地の狀況に最も適切なる如く經營しなければならぬことである。すでにその本質上からして、土地によつて種々特殊な教育を施すことが必然的に要求せられる。農業地に於けるものと、工業地に於けるものと、商業地に於けるものと、又漁村に於けるものとは、自ら異なるものがなければならぬ。然し是れ位の理論は誰にでもよく分つて居るのであるが、その實施に際してはなか〳〵容易でない。即ち商業と工業とを混じて居る土地もあれば、農業と工業とを混じて居る土地もあり、又同じ農業地であつても、田作を主とするものもあれば畑作を主とするものもあり、更に養蠶や製莚などの副業が盛んな所もある。或は又年々に土地の狀況が變化して行く所も、都會地などには少くない。かうなると其土地に適切なる如くするといふことも決して容易のことではない。種々の調査や面倒な研究もしなければならぬ。然しながら困難であり面倒であるからといつて、決して放つて置くことは出來ない。補習教育を效果あらしむるためには、此の土地に適切ならしむるといふことが頗る大切なことであるからである。周到着實なる調査や研究を俟つて、適宜個人の要求や各職業に適した方法を採ることにせねばならぬ。たゞ餘り煩瑣に流れたり、又劃一になつたりすることのないやうに注意することは肝要である。

土地に適切ならしむる事

更に補習學校内容充實の一手段は、生徒の就學を督勵し、而して就學したるものに就ては、大なる興味と奮發心とを以つて學修するやうに仕向けねばならぬことである。强制的な義務教育である小學教育と異つて、どうしても補習學校では就學の狀況がよくない。此

就學を鼓舞する工夫

のためには教育者が特別の苦心をしなければならぬ。教授されることが常に興味のある、そして新らしいことであるならばよいけれども、なか〳〵すべての教師にさういふことを要求することは困難であり、又教科書でさへ十分立派なものが整頓して居るといふことは出來ない。こんな有樣であるから、生徒の就學の狀況は甚だよろしくないのである。だからといつて補習教育は極めて大切なことであるから、大いに此等の點について考究して、生徒の就學を良好にする工夫をしなければならぬ。前に述べた如く補習學校の趣旨を徹底させることも必要であり、又教師に人を得ることも大切であり、而して教科書その他教授用の方便物が整頓されることも肝要である。

かくして一方生徒自身をして自覺せしむると共に、一方有效なる教育を施して一般にその效果を信ぜしめ、更に生徒自身に對しては鼓舞激勵する所がなければならぬ。

實習と勤勞の精神

尙補習學校の內容改善に就て擧げねばならぬことは、作業或は實習を多く課することゝ、諸種の產業の各方面を鄕土を中心として統一して授くることゝ、更に公民教育をしなければならぬといふことである。實習を多く課することは、實業補習學校に於ては大切なことである。勤勞を樂しむ習慣を養つて、而も實習によつて學理を活用することの手段と興味とを覺らしめ、もつて自己の職業に對する改良の途を講ずるといふ奮發心を起さしむることは、特に大切なことゝいはねばならぬ。實習は學理の理解を助けるばかりでなく、完全に行はるれば興味も深く效果も顯著なものであるから、今後の補習學校に於ては是非之を適當に取り入れることに工夫しなければならぬ。然しながら實習するとしても、其の如何なることをさせるかといふことは、研究しなければならぬことになつて來る。此の點に關してはどうしても鄕土を中心として、その土地に最も普遍的なる

郷土中心

實業についてさせることゝし、その他のものについては之を中心として有機的に統一せしむるようにせねばならぬ。例へば農業地方にあつては、農業上の實習等をも課して、之を中心として、商業、工業等の産業とも聯絡をとつて、他の産業に對する理解をも與ふることにせねばならぬ。これは單に其の地方の産業のみについての知識を與へるばかりでは不十分であるからである。尚さういふ考慮をするとしても、まだ〳〵國民としての教養といふ所までは到達しない。

公民教育

そこで補習學業に於ける一任務として、公民教育を施すといふことは必要なことゝなつて來る。補習學校の生徒はすべて皆その町村の優良なる公民とならなければならない。小學校の義務教育に於ても、公民教育の趣旨は行つては居るけれども、其の年齢から云つても、到底社會や國家や自治體等に關して完全なる理解や興味をもたせることは困難なのである。これに比ぶれば補習學校の生徒は、年齢からいつてもすでに青年期に達して居り、尚又自身すでに社會の中に日夜直接に接して居るのでもあり、やがて又數年ならずしてその自治體の公民として權利義務を遂行しなければならぬ好機會を控えて居るのであるから、此の時期を利用して公民教育を施すといふことは、極めて有效であり且つ大切なことゝいはねばならぬ。

さて以上略述した如き補習教育の内容を充實させ又改善をはかるためには、どうしても優良なる教員を得るといふことが先決問題である。何の仕事に於ても人の問題が第一であるが、殊に教育のこと、更に此の補習學校に於ては、それが從來餘り研究せられて居らず、盛でなかつたゝめに、特に大切なことゝなつて來る。どんなによい方案が立てられ、どんなによい設備ができてゐて、そして又どんなに生徒が意氣込んでゐても、教員に人を得なかつたならば、決して良い結果を擧げることは出來ない。況や補習學校の今日の狀況では、

優良教員の缺乏

その方案に至つても確固たるものが立てられてゐず、その設備も極めて不完全であり、その上生徒の集りは頗るよろしくないのであるから、この上優良なる教員を得なかつたなら、補習學校の前途は實に暗闇といはなければならぬ。若し幸に優良なる教員を得ることができたとしたならば、必ず良い方案も研突せられるであらうし、生徒も多數集つて來るであらう。かくては市町村と雖も設備を吝むようなことはないであらう。全くすべての光明は教員を得るや否やによつて定まるといつても過言ではあるまい。しかしながら今日かくの如き優良なる教員を得るといふことは、なか〳〵容易なことではない。

小學教員の兼任

從來補習學校の教員は小學校教員の兼任であるが、然し殊更に補習學校に關する研究を一般に積んで居るわけでもなく、又各地方に於ける實業に關する知識や興味をもつて居るものゝみとは限らない。否學理としては農業や商業を學んで居るとしても、その實際方面に關しては、むしろ生徒自身より劣つてゐるとさへ考へられないこともない。完全に實習を指導し得る教員が、果して幾人居るであらうか、疑はしいものである。然しながらこれも無理はない。從來の小學教員を責めるわけには行かない。先づ適當なる教員の養成法を考へて、十分に實業補習學校の教員として、その名に背かず指導し得るだけの實業的知識技能を授ける手段を考へることが急務である。此の方面の講習を開くことも有效であらうし、出來ることなら半數位の教員は小學校教員の兼任でなくて專任のものとして欲しい。そして此等の專任の教員は單に補習學校といふ學校内のみの教師とせずに、その町村に於ける產業の教師として指導させることにすれば、補習學校とその鄉土との關係を密接にして、もつと眞に有效なる教育の實績を擧げることができるのである。

專任教員を置け

偖かくの如き優良なる教員を用ふるとしても、又實習等を課して

補習學校の經費

完全なる教育を施すとしても、こゝに必要なるものは經費である。良教員を得るために出費を吝むようでは、決して教育の成績をあげることは出來ない。又是非ともしなければならぬ施設もしないで效果をのみ欲するといふのは、恰も木に縁りて魚を求めるの類である。由來我が國に於ては教育のことに出費することが甚だ思はしくない。勿論教育上の出資は産業上の出資と異つて、直ちに目に見えて利得が上るといふわけにはゆかない。然しながら事業に於ける資本が單に金錢ばかりでなく、人が最も大切なる資本の一つであることを知るならば、その資本たるべき人を養成する教育はやはり有利なる投資たるを失はない。何故もつと此の方面に經費を吝まず出さないのであらうか。今日の如き補習學校をして、眞に有效なるものたらしむるには、先づ此の經費を出し渋ることのないようにすることが肝要である。

實社會との聯絡

更に補習教育を盛にするためには、單に教員の努力のみに俟たず、その地方に於ける産業上の諸種の組合と聯絡を保ち、又自治體の吏員や宗教家等の協力を必要とするのである。此等のもの、卽ち組合員や吏員や宗教家等は、たゞ補習學校を學校内に於ける一つの仕事と見ずに、實に其の地方改善の源泉であると考へ、産業組合を生徒に利用せしむることによつて活きた産業上の知識を與へ、又組合自ら教育者として彼等を指導するの位置に立ち、自治體の吏員はその改良進歩をはかる最良の手段として、やがてその自治體の公民の大部分となる彼等を今の内に適當に教育し指導して置くことの頗る有效であることを考へ、又宗教家はたゞに老人のみを相手とせずに、も少し社會的に活動して、迷路に立てる青年の友として指導者として、大いに教化の實を擧げて貰ひたい。かくて直接學校に於ける教員の努力と、此等周圍のものゝ協力とによつて、始めて完全なる補

習教育の實績は擧げらるゝのである。

實業補習教育の普及及び改善について以上述べたのであるが、此の問題は單に教育上の一問題ではなくて、實に國家の立場から考へても重要なる一つの社會問題であらねばならぬ。義務教育が單に教育上の一問題といふよりもむしろ大きな社會問題の一つである如く、補習教育の問題も、他の勞働問題や婦人問題や政治問題等と同樣、否却つてそれ等のものよりも以上に、重要なるものといふべきである。然るに勞働問題や婦人問題や政治問題等のみが社會問題の如く考へられ、此等に對してのみ喧しい聲を聽き、補習教育については、教育者以外の人の口よりその叫びを聽くことができないといふのは、何といふ悲しむべきことであらう。英國の如き、之を强制的義務教育とすることが既に議會を通過して、實行の期に入つて居る今日、我が國に於ては、之について何等の輿論すら起つてゐないといふのは、何といふ心細いことであらう。戰後の教育に於て、殊更に此の補習教育の普及及び改善が緊急第一の仕事であることを玆に特筆して置く。

一個の社會問題

英國の補習教育

第四節　中等及び高等教育の振興

中等及び高等教育の振興も、亦我が國戰後教育の重要問題である。これについても多くの問題があるであらうが、こゝにはその主要なるものゝみについて論述することにする。

第一は多くの國民に中等及び高等教育を受けしめねばならぬといふことである。現在では此等の教育を受けるものは、實に國民中の極めて少數のものである。前に掲げた全國學校一覽の生徒數を見てもわかる通り、小學兒童數總計約七百七十萬に對し、中等生徒數は十五萬足らずであり、高等女學校生徒數は十萬、此の中學校と高等

小學と中學の生徒數

女學校の生徒數を合した所で漸く二十五萬弱である。卽ち小學校を終つたものゝ凡そ百分の三だけが進んで中等教育を受けて居る。尤も中等教育と見るべきもので、小學校の卒業生が入學するものに師範學校、各種實業學校等があるが、此等を合した所で總數に於て約三十八萬、割合からいへば百分の五に足りない位である。これから更に進んで高等教育を受けるものに至つては、又たその中の極少數で、其數約六萬、卽ち中等教育を終つたものゝ凡そ百分の十五位のものである。之を小學兒童數に比べては實に千分の八に足りない少數である。勿論此等は正確な數ではないが、大體の狀況を知るには十分であると思ふ。之を要するに國民の大多數は小學教育を終つたまゝで社會に出て行くのであり、その凡そ百分の五が中等教育を進んで受け、更に又千分の八のものが高等教育を受けて居ることゝなつて居るのである。此等の狀態を觀るとき、吾人はどうしても一層

寥々たる高等教育

國民の能力を全體的に引上ぐるため、中等及び高等の教育を振興することの急務であることを思はずにはゐられないのである。

吾人をして理想を言はしむるならば、パール・マンロー教授の中等教育義務論にも贊成したいのである。然し我が國教育の現狀としては、それは餘りにかけ隔れてゐて空想としか思はれない。目下のところ出來るだけ中等教育を受けるものを多くして、せめて遠くないうちに國民の半數位は皆中等教育を終つたもの位にはしたいものである。高等教育は別として、中等教育は實に今後の國民としては是非受けるやうにしなければならぬと思ふ。殊に我が國は前に第二節の義務教育の所にて述べた如く、國語國字といふ特別な厄介な問題をもつてゐるので、此のためばかりでも教育の效果は非常に減少されるので、事實に於ては我が中學校を卒つたものですら、やうやく歐米の小學校義務教育八年を終つたもの位の實力しかないのである。

國民能力の向上

此の點から考へても中等教育を振興することは必要である。

高等教育振興の必要は、今回の世界大戰に於て殊更に強く感ぜしめられた。殊に獨逸を始めとして英米佛等の諸國が、その進歩せる科學を利用して異常の效果を示したことは、未だ吾人の記憶に新たなる所である。米國に於ては彼の科學の進歩、實業の隆盛をもつて

科學の利用と高等教育

して尚不足なりとし、戰時から戰後にかけて大いに科學教育、高等教育の振興改善に努めて居るではないか。英國然り、佛國又然り、然るに此等の諸國より遙に遲い我が國の高等教育に於て、どうして之を盛にしないでよいであらうか。たゞに實業を勃興せしむるためばかりでなく、政治に、法律に、外交に、經濟に、尚又教育、宗教、藝術に、すべて文化國としての完全なる內容たるべき諸種の方面について、高等なる研究を盛にすることは目下の我が國として實に緊要なことではあるまいか。

中等及び高等の教育がかくの如く必要であるとして、之を振興するについて講ぜねばならぬ方法は種々あるであらう。然し第一としては國家が此等の急務なることを重視して、學校を增設し設備を完備することでなければならぬ。強大なる海軍を造ることゝ、此等の教育を振興することゝは、何れが今後に於て必要であると思ふであらうか。海軍も勿論無くてはなるまい。然し一隻の軍艦を造る費用があつたなら、今日の直轄學校を殆んど二倍にすることができるといふことを聞いては、むしろ一隻の戰艦よりは、數萬人の優秀なる人材を欲しいと思はずにはゐられない。年々の新學年に於て中等學校に入學出來ない少年は少くない。中等學校の入學試驗が今日の如き激烈さを示すといふのは、實に國家としての恥辱ではあるまいか。勿論中等學校中に於ても評判のよい學校には多くの志望者のあるのは當然であるが、然し此等の現象はたゞ自然の數として傍觀して居

軍艦一隻の教育費

國家としての恥辱

るべき問題では決してない。僅に十二三歳の少年が、入學試驗のために嘗むる苦痛や失望やは、實に國家の大損失ではあるまいか。此等に對しては、學校を增設することゝ、その內容を改善して甲乙なくすることゝ、更に所謂受驗準備等の非教育的事實に對する防遏の法を講ずることが必要である。中等教育に於ては未だしも、高等教育に於ける入學難に至つては實に言語に絕するではないか。中等學校を卒業して、高等の學校の入學試驗に應ずる爲に苦しむ青年の多いことは、到底中等學校の場合に於ける比ではない。それほどの低能者でなく、否普通の能力者でも、なか〳〵入學が出來ない。優秀なるものでさへ、どうかすると一度では入學出來ない有樣である。中等學校を終つたものであるから、先づ大體からいつてそれほど低能者ばかりとも考へられない。それであつて二年も三年も入學準備にかゝり、そのうち年齡は進み、社會上の誘惑にはかゝり、入學の出

言語道斷の入學難

來ぬために自暴自棄に陷つて、遂には本人の生涯を不幸にするばかりでなく、親兄弟は勿論、社會一般に對しても少なからぬ害毒を流す人間となつてしまふ事實が、どうして少いといひ得やうか。所謂不良少年、不良青年の經路は大抵かくの如き道を通つて來て居るものに多いことによつても、明に知られるであらう。兎に角、中等の學校、高等の學校を增設して、希望に滿てる少年青年の意氣を挫くことなく、その欲する所に從つて十分に教育を受け得るやうに施設することが、何といつても今日の急務である。

不良少年の經路

一方學校の增設をはかると共に、その教育の內容の改善をはかることは、又實に必要なことである。我が國の教育に於て、小學校の教育のみは割合に研究せられて居るけれども、中等及び高等の教育に至つては、まことに寂しい狀態にある。中等及び高等の教育には、その內容について少なからぬ改善の必要があると思ふ。兩者を通じ

內容改善

て、教師が教育的見識を缺いて居ることや、生徒及び學生に自學心研究心のないことは、その最も顯著なることであらう。殊に中等學校の教員に於て、自ら學者的態度（それも外形ばかり）を持して居つて、學問や知識の切賣り以外何等の能のないものが甚だ少くない。

中等教員の常識

常識を缺いて居る點については、實に中等教員ほどのものは世に少からう。時勢に對する理解もなく、青年心理についての領解もなく、保守と頑冥と自惚と獨斷と冷酷と、これ以外には何物もないといはれるやうな人達の少くないことを發見する。小說を讀んだからといつて眼の色をかへ、美人畫を見たからといつて直に職員會議に上すといふ自稱君子や道學者先生は、どうしても此の世界でなければ見當らない。實に人間として偏狹なことは、生徒よりもむしろ劣つて居るといふやうな教員のあることを思ふ時、中等教育の改善には先づその教員から改造しなければならぬといふことを思はせられる。

生徒に劣る教員

廣い常識と深い知識とそして高尚な趣味とを有し、眞の青年の同情者、親友、共鳴者となつて、彼等を指導して行く教員を得ることは、中等教育改善の第一歩である。それが中等學校ばかりでなく、高等の學校に於ても、教育内容改善は、教師に人を得るや否やの外に問題はないといつてもよい位である。學生の精神生活の友として、又研究の指導者として、十分に青年教育の任に當り得る人を養ふことが大切である。高等の學校では專門の知識さへあれば教師が出來ると思ふのは甚だ間違つた考である。これでは我が高等教育はいつまでたつても單に免狀を與へるための場所、肩書を與へるための場所

肩書のための教育

とより外、一歩も先に出ないであらう。我が高等の學校を卒業したものは、その卒業の時が最も知識の高い時であつて、それから時の經つに從つて漸次減退して行くといふのは、そこに大いに高等教育の方法について考へねばならぬことが含まれて居るであらう。歐米

の學生が卒業後に於て益々研究を續行し、その學校に於ける教育を基礎として、自分自身にその上に建設し創造して行くに對して、我が學生の氣風が、學校は就職のための方便であるかの如く考へて居ることを比べたなら、實にそこに雲泥の相違を見出すであらう。これ等は一體に我が國民性の一端が現はれたものと見ることも出來るけれども、然し教育法にもその罪を見出さないわけには行かない。研究本位、學生本位、活動本位の教育は單に小學校のみに於ける問題ではなく、實に中等學校は勿論、高等の學校に於ても是非とも大いに研究し用ひなければならぬ所のものである。

好學心を培養せよ

更に中等及び高等の教育を振興するためには、國民一般の好學心、研究心を刺戟し奬勵し培養することが肝要である。近時に至つて餘程國民の好學心は進んで來たといつてもよく、新聞や雜誌の發行部數が漸次增加して居ることによつても、又種々の書籍の出版が近來殊に盛になり、雜誌に於ても諸種の方面に亘り特殊なものゝ發行を續々見るに至つたことによつても、這般の消息はうかがはれる。然し之を歐米諸國に比べては、まだ〳〵比較にならない。彼の國に於ては勞働者と雖も、その餘暇をもつて圖書館に通ひ、博物館に通ひ、勉强して居る有樣であるのに、我が國に於ては學生自身すら此等の圖書館、博物館等を利用することが少い、況や一般の國民に於てをやである。先づ國民一般の好學心を培養して、親は子を、子は自らその經濟と自己の能力とを考へて、出來るだけ中等、高等の教育をも進んで受けやうとする考を起さしむるやうにしなければならぬ。學生生徒にして眞の好學心研究心がなかつたなら、如何なる設備も教師も何ともすることができないであらう。

高等教育振興の三要項

學校を增設し設備を完全にすること、教員に人を得ること、而して國民一般の好學心を養ふことゝは、實に中等及び高等の教育

を振興するに缺くべからざる必要手段である。此等の三拍子が揃つた時、完全に中等、高等の教育は振興するであらうし、かくて我が國民一般の教養は向上して、始めて新らしい文化國を建設することができるであらう。近年に於て文部省が高等學校、高等商業、高等工業その他の直轄學校增設の實行に入つたことは、それが普通教育を顧みない點については遺憾であるが、然し高等教育のためには誠に賀すべきことである。普通教育は國民全般の教育であるから、之に先づ力を注がねばならぬことはいふ迄もないが、又中等及び高等の教育についても此等と平衡を失せず、その振興を計ることが、特に今日の我が國としては大切なことである。

第五節　女子教育の振興

近時の發達

我が國に於ける女子教育の發達は極めて最近のことであつて、日清戰爭以後に次第に盛になつて來たのである。明治二十五年以前には全國に僅に二十餘の高等女學校が有つたに過ぎず、又これに關する規定なども無かつたのであるが、これ等によつても其の頃の女子教育がどんなものであつたかがうかがはれるであらう。

近時に至つて女子教育も段々盛となり、その校數に於ても生徒數に於ても、中等程度のものについては漸次男子のものに近づきつゝある。然しながら高等程度の女子教育に至つては未だ甚だ振はない狀態にある。今後に於ては中等程度のものは勿論、特に高等程度の女子教育の振興をはかることが必要である。

振はざる女子高等教育

女子自身によつての自覺も近來は餘程進んで來たが、まだ〳〵男子に比べては頗る遲れて居るといはねばならぬ。皮相的な男女同權論を振廻す間は、未だ女子のほんとの自覺といふことは出來ない。いふまでもなく男子といひ女子といひ、それが人間としての價値や

尊さに於ては何のかはりもない筈であつて、女子だからとて決して男子の手段となるべきものではない。男子も女子も、各々獨特の本領を有する人格者として、他から犯すことの出來ない目的を自身にもつて居るのである。だから女子が自己の本領を自覺し、人格に基いた自己を主張するのであるならば、それは何處までも强硬に主張して差支ない。若しそれを阻止する男子があるならば、それは男子の方に非があるといはねばならぬ。

女子の人格的主張

一體我が國に於ては、從來封建專制の政治の下に於て、男子が當に女子を壓迫して來たから、自然に我が國の女子は萎縮して、その心身に於て自由なる伸長をすることができなかつたのである。惡くいへば常に虐待されてゐたといつてもよいのである。然しながら女子が虐待され壓迫されて、その心身が順當に自由に發達することのできない境遇に置かれてあつたならば、その女子によつて生れた子供も亦、心身共に優良なものであるとは決して想像されないであらう。實に女子の虐待されるといふことは、取りも直さず子孫の虐待されることであつて、その損害は女子ばかりでなく男子自身にとつても同樣損害となるのであつて、やがて未來の男女、未來の國民の大損失となる所以である。此の意味に於ても、先づ女子をして其の心身を十分に發育させることのできるだけの自由と境遇とを與へなければならぬ。かくて優秀なる國民の產出をはかることにしなければならぬ。我が國に於ては、明治維新以來男子の自覺や又女子自身の自覺により、それが更に女子教育の發達によつて、女子の家庭及び社會上に於ける意義や地位が餘程進んでは來たが、然しまだこれを歐米の文明國に比べては、大分後れて居るといつてよろしい。從來の女子の誤れる地位や境遇を改むるといふ點からは勿論、優秀なる子孫、優秀なる國民を生むといふ點から考へても、家庭及び社會

女子の虐待は子孫の虐待

上に於ける女子の地位境遇を改め進め、更に男子の女子に對する態度を改むることが大切である。

女子の地位境遇の改善

然しながら女子の地位や境遇を改むるについては、ただ男子の反省を促し、その同情に訴へるだけではいけない。先づ第一には女子自らがその相當なる地位境遇を得るだけの資格をもたなくてはならぬ。女子自身に於てすでに十分なる資格を有したとしたならば、如何に頑冥なる、又如何に不明なる男子といへども、遂には女子に對する十分なる理解を得るに至るであらう。即ち女子の地位を向上させる手段としては、一方男子の態度を改めさせることは勿論、一方女子自らの教養を努めなければならぬ。かくて我が國に於ては目下特に女子教育振興の急務であることを領解することができるであらう。

女子の本領

女子としての本領はやはり妻となり母となることでなければならない。勿論その人の境遇により、其他の理由によつて、獨身で居る女子も、職業に携はる女子もあつて決して差支はない。けれどもやはり原則としては妻となり母となることをもつて、女子の第一の本領としなければならぬ。それが自然の攝理であり、又女子としての權利である。

母としての教養

家庭に於ける母の地位は極めて高く且つ大きいものである。若し女子にして而して母にして、此の地位と責任とについての自覺がなく、又それを遂行するの努力がなかつたならば、それは單に女子として又人間としての義務を果さないばかりでなく、實に國家にとつても大なる損害といはねばならぬ。そこで母としての教養をすることは、實に女子の再生の途を講ずることであると同時に、國家及び人類の向上を講ずる所以である。女子にして母としての教養がなくてその子を育てるとしたならば、その子の不幸は甚だ大きいもので

ある。由來我が國に於て死産や幼兒の死亡の率の極めて多いことは、そこに實に憂慮すべき問題を存して居るのであつて、之を防ぐためには先づ第一に母としての教養が肝要である。先づ母體の健全といふことを常に注意し、姙娠中の攝養の心得から、幼兒の哺育に關する知識、更に兒童の教育に關しての知識や意見など、母として是非ともつてゐなければならぬものが澤山ある。而も我が國の從來の母には此等の用意が極めて缺けて居た。從つて女子教育に於ても、此の點に對する教養を怠り、若くは有效にしてゐなかつたといはなければならぬ。何といつても女子教育に於ては、母として完全なる教養を與へるといふことが肝要である。

妻としての教養

家庭に於ける妻は、先づ家庭内に於て十分に自己を生かす工面、自己を實現する工夫をしなければならない。勿論妻であつて、家庭内のことはすべて家政婦に委任し、自分は自分としての生活（廣義の）を、妻としての生活と同時にやつて行くといふことも、決して惡いことではない。必ずしも家庭内に沒してしまふがよいとはいはない。然しながら我が國の生活狀態に於ては、妻と家政者とは同一人である場合が殆んどすべてであるから、やはり妻たると共に優良なる家政者であることは必要である。妻としては、夫の伴侶として眞に理解ある内助者、親友たることゝ、又家政者としては、十分に文明の利器を利用し、科學の助をかりて、研究的態度をもつて漸次家政を改良して行くやうにしなければならない。そのためには女子教育に於て妻たるの教養を授けることは極めて大切なことである。妻として優良なるものは、それはすでに女としても優良なるものなのである。

人間としての教養

然しながら妻たり母たるための教養を、殊更に狹く解釋して、子供の育て方や飯の焚き方のみと思ふのは甚しい誤である。妻たるも

又母たるも、等しくそれは人間としての妻であり、又母であるのであるから、そこに人間としての一般的の廣い深い教養を必要とすることは極めて重要なことである。人間として立派な人間であり得たならば、やがてその人は、妻としても母としても立派な妻であり母であり重要なる資格を有するものである。

眞の良妻賢母

眞の良妻賢母は、眞の立派な人間でなくてはならない。皮相的な舊式な、育兒と家事とをもつて全部とする良妻賢母主義には吾人は贊成することは出來ないのである。勿論それ等のものも、良妻賢母として必要なる資格ではあるが、たゞ機械に等しいものであつたり、又乳母や女中に等しいのみでは、決して良妻賢母として十分でない。そこには深い人間としての教養があつて欲しい。かく考へて見る時には、今日我が國にある實科高等女學校には、甚だ多く研究の餘地が存する。吾人はむしろ單に高等女學校として、實科の肩書を取去ることを主張したい。低

實科高女を改めよ

級な淺薄な、たゞ家事と裁縫とが幾分よく出來る女子を造つた所で仕方がない。むしろ從來の高等女學校に於てすら、も小し根柢ある人間的な一般的な教養をして欲しいと思ふ位である。事實高等女學校の卒業生は中學二三年修業の男子位の實力しかもつてゐない。これではいつまでたつても、女子をして眞に男子と對等ならしむる日は來さうもない。どうしても先づ女子に立派な人間としての教養を與ふることが肝要である。

女學校の内容改善と高等教育

而して女子をしてたゞに家事と裁縫とに主力を注がしむるばかりでなく、一般的のも少し深い高い教養を與ふるとしたならば、今日の女子教育の制度及び内容では到底出來ない相談である。そこで一方に於ては高等女學校の内容を改善すると共に、一方に於ては、更にその上に進んで高い程度の教育を受けようといふものゝために、女子高等教育機關が出來なければならない。女子高等學校といふや

うな、男子の高等學校に相當するものを設けることが是非とも必要である。而して此の高等學校を終つて、更により高い專門の教育を受けたいものゝためには、女子のために大學を開放することにしなければならない。別に女子の大學を設くる必要はあるまい。大學程度に於ては却つて共學にするがよいと思ふのである。かやうにして、女子にも男子と同樣に高い程度の教育を受け得る途を設け、又專門の研究に從事するの途をも開くことにしなければならぬ。男子のみが獨占して居る高等教育は、此れを女子にも與へて、男女の別なく教育上に於ける機會均等主義を實行しなければならない。實に女子のための高等教育の振興は焦眉の急務であるといつてよい。

大學は男女共學とせよ

近來女子のための職業教育が盛になつて來たことは、決して悲しむべきことではない。社會が文明になればなる程、諸種の事柄が複雜となつて來て、男子のみの働きでは足りなくなり、女子の活動を

女子の職業教育

も要求して來る。而も女子の方が却つて適して居るといふ職業もあるのであるから、かういふ方面に職業婦人として活動することは、社會共存の意義からいつても、女子の責務として當然のことであるといはねばならない。殊に或る學術技能に於て天才的である女子は、此の點に生涯を捧げることも、個人としても又國家としても、大に意義あることである。然しながら職業婦人といふも、やはり妻たり母たること以上の女として生きて行く途であるとは考へられない。況して子供をもつ母にして、僅の賃錢を得るために、子供を放つて置いて外勤するといふが如きは、却つてその損失は大きいものがあるのである。然しながら一朝働き盛りの夫を失ふて、遺兒を育てゝ行かねばならぬといふやうな場合に際會した時、若し生活するだけの財產がないとしたならば、其の時は母の勞働によつて生活し、育兒を兼ねて行かなければならぬ。かゝる時の用意として、今後の女

家庭と職業婦人

子はその身に一定の職業に對する知識技能を有して居るといふことは、甚だよいことである。尙職業によつては、家庭内に於ても差支のない限り働かれるものもあるのであるから、從來の如く女子はただ男子を杖柱とたよつて、一朝の不幸に遭遇した時悲慘に陷るといふやうなことのないために、自分自身で働いて生活ができるだけの實力智能を有して居るといふことは寧ろ奬勵すべきである。女子の職業學校についても、大いにこれを研究し、設立するの企てが是非なければならぬと思ふのである。

教育の職業化と教育の社會化

教育の職業化は男子ばかりについてゞなく、女子についても起つて來たのであるが、然しこれのみが、決して教育の最後の理想でないことは明かである。近時男子の教育に於ても、漸く職業化から社會化へ轉じようとして居ることは事實であるが、女子教育に於ても當然かやうになつて來るべき筈である。かくて社會共存團體の一員として、優良なる國民として、完全なる人格と知能とを養ふことは、男女を論ぜず、その教育の目的とならねばならないであらう。卽ち女子も確に社會或は國家組織の重要なる、且つ無くてならぬ一要素であるからである。

そこに女子としての本領を十分に發揮して、以て人間として、又妻として母として完全なることができた時、女子教育は成功したといはねばならぬ。要するに女子として、卽ち人間であると同時に女子である女子として、その「女らしさ」を十分に發揮せしむることが、女子教育の根本義であらねばならぬ。

女らしさ

今日の我が國の女子教育の改善について一言附加へて置きたいことは、その教員の改造を斷行しなければ決して前述のやうな教育を施すことはできないことである。我が國の女子教育家ほど、因循姑息で、舊弊で、沒常識で、低能で、そして又聖人振つた人間は少い

女子教育家の改造

のである。それを中學校に比べても、尙一段と甚しい。相手が若い純な美しい、そして熱烈な心情の持主である女子であるから、その教育者としては、十分にそれ等の心理についての知識を有し、彼女等と大いに共鳴し理解し同情し得るの精神的態度を有して居るものでなければならない。かやうな教育者でなくては、眞に心から彼女等を指導し教育して行くことは決して出來ないのである。所謂老孃なる女子教育家――それは純美なる感情の枯渴者、一種の色眼鏡の所有者、女であつて女でない女、――によつてなされる女子教育は、むしろ危險であると言ひたい位である。こんな教育者によつて、どうして「女らしい」女、「人間らしい」女ができるであらうか。女子教育に於ては特に優良なる教師を必要とするのであるに、從來女學校は中等教員の墓地と、他人もいひ又女學校の教員自身も言つて居る今日の狀況では、その改善や振興も甚だ心細いことゝいはねばな

中等教育の墓地

らない。實に女子教育に於ては、特に〈教員の改造を絶叫せずにはゐられないのである。

第六節　師範教育の改善

教師といふ蓄音機

教育の問題は結局やはり教師の問題となつて來る。教師に其の人を得るか否かゞ、教育的效果の最後の決定を與ふるものであることは、前にすでに所々に於て述べた通りである。教育の改造を企圖するならば、先づ第一着に教師の改造を企てなければならぬ。教師に人を得て、始めて法令も教科書も善用せられるのであつて、教育が單に教師といふ蓄音機によつてのみ行はれないことは明白なことである。教科書といひ教材といふも、それはすべて教師といふ人格者を通じてこそ始めて有意義となるのであつて、人格と人格との接衝これが卽ち眞の教育である。だから若し教師にして完全なる人格者

でないとしたならば、到底眞の教育の行はれよう筈はないのである。

教員型の打破

教師の改造については、先づ師範教育の改善が急務である。その所謂師範學校式教育風の改善、學科課程の改善、寄宿舍制度の改善、師範學校教師の改善等はその主なるものであらう。

世に所謂教員型なるものがある。曰く若年にして老年者の如き風采、若くして老人臭きことを口にする、內に醜にして外に美なることを努める、自ら忠君愛國の志士を氣取る、淺學にして而も物識りらしき顏をする、金が欲しくもそれに超然たるが如き口吻や態度をなし、度胸小さくして尙大度ある樣を裝ふ。而も平時はよくかくの如くその僞善をなし終るも、一朝の急に際しては、尙之を貫徹するだけの大惡的根性もなく、淺薄にその正體を暴露してしまふといふ人間、これが所謂教員型なるものである。憫むべきにあらずして、むしろ憐れむべき部類の人間である。常に二重生活に苦しんで居るのである。否自ら二重生活をなしつゝあることを自覺するものは、まだそれは立派な人間であつて、誰でも人間は大抵ある程度の二重生活を營んで居るとも見ることが出來、そこに生活の奮鬪や向上もあるのである。然しながら二重生活、甚しきは三重生活四重生活を營むも、何等之に對する自覺も反省もなく、世渡りの道としては常の道なるかの如くに平氣に考へて居る連中、これが所謂教員なる世界に多く棲んで居るのである。而してかくの如き種類の人間、所謂教員型なるものを製造する工場は、いふ迄もなく主として師範教育である。

自覺なき二重生活

消極なる師範教育

師範學校に於ては、十六七歲位の少年をすでに成人扱とし、常に消極的訓練を施して水も濁さぬような大人らしい人間を造ることに骨折つて居る。若し一歩でも新らしい世界に足をふみ込まうものなら、忽ち危險人物とされ、教員に不適當なるものとして放逐され

てしまふ。それがどんなものであらうとも、小說はすべて道德に對する謀反者の如く排斥されて、師範學校生徒はこれを讀むことを阻止されるといふ狀態である。師範教育に於ける訓練の主眼はすべて消極的方面に置かれ、規律、服從、沈默、溫和、威重等は殊更に重んぜられ、自由、創造、論舌、活潑、無邪氣等は却つて斥けられる有樣である。かくの如きは少年並に青年の心理に背馳するものであつて、眞の人格陶冶をすることは決して覺束ないことであらう。

青年の心理に順應せよ

されば師範教育の改善に於て第一になすべきことは、此の從來の所謂師範型、教員型なるものを破つて、眞に潑剌たる青年の心理に順應せる人間の教育をすることにせねばならぬ。而してそのために、第一に師範學校の教師にその人を得ることが大切である。由來師範學校に於ては、その教師からして一種の師範型を有して居る。如何にも老成したやうな、そして小膽な、神經過敏な人間が多いようである。稀に氣慨のある、覇氣のある、青年と共鳴點を有する新人があると、彼等は寄つてたかつて之を迫害し放逐するのをもつて誇りとして居るかの如くである。師範學校の教師の人選は實に重要なことである。特に師範學校に於ける上席を占むる老大家なるものは最も始末に困る人間である。これ等の老大家を相當に處置し、新らしい眞の青年教育家を拔擢して、師範教育の重任に當らしむることにすることが必要である。

始末に終へぬ師範の老大家

師範學校に於ける學科課程についても改善すべき點が少くないが、その要は、今少し專門的造詣と教育的識見の向上をはからねばならぬことである。高等師範學校に於ては、それ〴〵專攻の學科について相當に深い研究をさせることになつてゐるが、然し吾人は此の點についても尙一層高い知識の授與發見をすることにせねばならぬと考へる。そして或る者は十分に學界に於ける權威となり得る程の人

高師からも博士を出せ

物を輩出せしむる位のことはあつてほしい。博士號が必ずしも貴いものといふのではないが、それにしても高等師範學校卒業生中からも之を續出せしむる位のことはありたいと思ふ。かやうに專門的知識の造詣を望むとともに、むしろより以上望みたいことは、廣い教育的識見をもつて貰ひたいといふことである。無論從來とても、何の科に於ても倫理學や教育學の講義はするけれども、その效果に至つては甚だ薄弱なものであつたと思ふ。かやうなことでは生徒自身に於ても專攻の學科さへ勉强すれば、教育學の如きはどうでもよいといふやうな考を生じ勝になる。事實從來のような教育學の講義では、甚だ心細い感がせずにはゐられない。專攻の學科はもとより大切であるが、より以上教育學（これとて從來よりも少し廣義の、そして改善されたものであつてほしいが）については興味と努力を出さしむるようにしなければならぬと思ふ。教育學といつても彼の概

廣い教育的識見

論的なものゝみではいけない。どうしても哲學、宗教、藝術、道德等の廣い根柢に亙つたものであつて欲しいと思ふのである。要するに教授法が上手になるための教育學ではなくて、教育者としての人間陶冶のための教育學であつて欲しいのである。かくて教育的識見を有して、其の深い造詣ある知識を生徒に授けやうとする時、始めてそこに單なる知識の切賣りでなくて眞の教育が行はれるのである。極論すれば、その深い知識を方便とし橋渡しとして、而も生徒の心意を適確に拉し來つて此の知識に面接せしめ、もつてそこに教師と生徒との人格的交渉を有意義に行はしめるやうにすること、これが眞の教育の秘訣でなければならぬ。かくて專門的知識についての造詣と、廣い教育的識見とは、教育者殊に現在の中等教育者に無ければならぬ重要のものである。高等程度の師範教育に於て、此の點に對する考慮を要することはいふ迄もないことである。

眞の教育の秘訣

學科課程の改善

更に師範學校（府縣）に於ける學科課程については、一層の改善を要求しなければならぬ。「その學科に對する知識の貧弱なること、教育的識見の低級なること、は前者の比ではない。尤も前者は專攻科目なるに對して、後者は各科について八百屋的に學修しなければならぬのであるから、造詣どころでないのも當然のことである。殊に今日の如く文化の進んで來た際、各科について相當の自信ある知識を收得するといふことは餘程困難なことである。然し或者は言ふであらう、小學校の兒童に教授する位の知識なら格別のことはないと。然し、それは皮相の見解であつて、未經驗者の言である。どうして曖昧な無理解な不明なまゝに教壇に立つことができよう。いくら相手が幼少な子供であるからとて、眞理を枉げて、或は誤まつて授けるといふことは決して出來ない。さういふことを敢てする教師があつたら、それこそ由々しきことであらう。たとひ兒童に對しては、簡單に或は平易に教授するとしても教師としてはやはり一層深い科學的根據を有してゐなければならぬ。さうでないと決して自信ある有效なる教授を施すことは出來ない。況や教授を通じて眞の教育を施さうといふが如き餘裕の生ずる餘地ができるわけがない。兎に角現在の小學教師は各科についての相當深い且つ確實な知識と技能とを有して居なければならぬことになつて居る。然るに事實現在の小學教師がそれだけの知識技能を有して居るかといふに、決してさうではない。これは小學教師その人の不敏或は不勉強といふよりも、むしろかゝる要求そのものが無理ではないかと思はれる。無理な要求でも是非といふことになれば、仕方がないから其場を紛らすためによい加減のことで濟さなければならぬことになつてしまふ。かやうにして現在の小學教師はその脊負ひ切れない重い荷物を無理に擔はせられて、いたし方なく其の日〳〵を樂しくもなく苦しみ〳〵過

脊負ひきれぬ重荷

して居る有樣である。かゝる狀態でどうして教育に趣味が得られやう、興味が起らう。稀に興味を感ずる學科があるとしても、尙それに力を注ぐだけの餘裕を見出すことができないのである。こんな狀態では教育者なるものは、全く個性の發展を阻止される苦しさに堪へないであらう。たゞに學科についてかくの如きばかりでなく、特に教育的識見の貧弱且つ低級なることは更に驚くべきといふよりもむしろ悲しむべき狀態である。實に師範學校に於ける教育學の不徹底は誰しも認める所で、從來の如き教育學にては決して相當なる教育的識見を養ふことは出來ない。小學校は中等學校に於けるよりも一層此の方面の知識の必要が多いのであるから、今一層の改善を加へて、教育學的修養をなさしめ、相當の識見を有する位にはしなければならぬと思ふ。要するに學科についての知識を今一層深く確實に收得せしむるとゝ、特に教育學的修養を十分になさしめるようにすることゝは、師範學校に於ける學科課程改革上の主目標でなければならぬ。

教育學の不徹底

師範學校改革案

かくの如き改革の一案として、吾人は次のものを提出する。即ち師範學校の修業年限を五ヶ年とし、而して最初の二ヶ年を豫科として普通教育を受けさせる。かやうにして二ヶ年の豫科を終つた時、本人の志望と學科の成績とによつて、文科か理科かの何れかへ進ませる。豫科を終つたものは此の文科と理科との何れかへ三ヶ年入つて、やゝ專攻的に學科を修めるのである。今文科理科に於て教授すべき學科目を示して見ると、

即制度

文科＝修身、教育、法制經濟、英語、體操、（以上共通科目）
　國語漢文、歷史、地理、（以上專攻科目）

理科＝修身、教育、法制經濟、英語、體操、（以上共通科目）
　數學、博物、理化、（以上專攻科目）

選擇科目――農業、水産、商業

隨意科目――圖畫手工、音樂、

特に女子には家事、裁縫を必須科目と定める、

尙他に專科の教師をも養成することが必要であつて、圖畫手工や、音樂や、農業、水産、商業の如きは之を專科の教師に一任するがよい。勿論文科や理科のもので特に趣味を有して他の學科を勉强したものには、其成績によつて免許狀を授與するも勿論よい事である。

かくて師範學校を五ヶ年にして卒業したるものは、その專攻科目については餘程豐富な知識をもつことになり、又教育學的識見をも相當にもつて出ることになる。そこで彼等は小學校に赴任して、文科理科出身のもの二人が共同して二學級を擔任することにする。二人二學級擔任制は、實に從來の擔任法よりも、その教師を個性的に生かす上からいつても、又兒童の個性を偏頗なく指導し發育せしむ

二人二學級擔任

る上からいつても、又教育教授の能率を上げる上からいつても、その他すべての點から考へて有效なる方案である。（尙二人二學級擔任制については言ふべきことが多々あるが、本節の題目と直接關係がないからこゝには省略する。）かくして教育者も自己の個性の存する所に從つて、趣味に生きながら、而も樂しく有效に教育教授に從ふことができるのである。實に師範學校に於ける學科課程の改善は今日の急務であつて、右のような斷乎たる改革案を實施して欲しいものである。

寄宿舍制を廢せ

師範學校の寄宿舍制度は之を全廢したいと思ふ。その利する所よりも損する所が甚だ多いことを思はずにはゐられない。考へて見るのに、師範學校に寄宿舍制度を設けて、此の制度を利用して嚴格なる軍隊的訓練を施さうとしたのは、實に明治十八九年の頃、森有禮が文部大臣となつた時のことで、當時大いに國家主義の教育を奬勵

したる時の自然の現はれであつたのである。然るにその後時を經ることすでに三十餘年、教育上に於ても著しい進歩の跡を示して來て、當時の如き教育法が何の非難もなく行はれようとは勿論思はれなくなつた。然し師範學校にだけは、尙幾分當時の教育風の殘存して居ることを全然否定することは出來ぬ。特に此の寄宿舍制度がそれである。單なる生徒本位の宿泊所といふ意味ならまだしも、寄宿舍の隅々に尙當時の軍隊的專制的僧庵的遺風の存することを認めずには居られない。これによつて生々潑剌たる青年の意氣を壓迫し削減することが決して少くない。丸で檻の中に入れられたる獸の如きものである。遂には從順となり、溫和となるであらうが、然しそのかはり因循や狡猾やは免れなくなるであらう。或る小膽なる神經過敏なる教育家は言ふであらう、それ等はまだよしとして、若し彼等を解放することによつて生ずる危險を思へと。吾人も勿論それを萬更思

軍隊的專制的僧庵的遺風

解放する事の利害

はぬでもない。然し四六時中寄宿舍に押込めて置くわけのものでもないのであるから、惡いことをしようと思ふもの、又は誘惑にかゝるものは、寄宿舍制度のもとにあつても免れることは出來ない。却つて壓迫に對する反抗、不自由に對する自由の熱望、不可能事に對する焦燥的好奇心等が手傳つて、より多い損害を蒙つて居るのではあるまいかとも思はれる。彼の師範學校生徒の何處となく陰險なるに對して、中學校生徒の如何にも放膽無邪氣なる、よく這般の消息を知ることができると思ふ。殊に女子の師範學校生徒を寄宿舍に收容することは最も贊成することが出來ない。華やかなるべき處女の時代を淡暗き舍窓に閉籠め、老獪なる老嬢舍監の監視のもとに次第々々にその美しい若い溫さが失はれて行く、何といふ痛ましいことであらうか。これでも人間の教育をする人を養つて居るのだといへるのであらうか。男子も女子も同樣に、彼の寄宿舍制度は全廢して、

女子師範の寄宿舍

若し自分の家庭から通學の出來るものは之に越したことはないのであるから通學させることゝし、又親族や知人の家庭に寄泊して通學するものはそれをも許し、別に確實なる宿所もなく、だからといつてたゞの下宿屋にも置けないといふ位のものゝみを寄宿舍に收容して、そこでは大いに自由と自治とを重んじて、出來るだけ彼等をして家庭的團樂の缺乏を補つてやる工夫をするようにしなければならぬ。青年期のものを温い家庭から引はなして冷酷なる寄宿舍に押込め、年に一二回の歸省すらなか〳〵面倒であるといふ教育法で、どうして人の子を扱ふ教育者が造られようか。殊に女子は出來るだけ家庭的境遇に置いて、温い情操や情緒の陶冶の機會を多くすると共に、家事の實地の經驗を得させることも必要なのである。

世間の空氣に觸れしめよ

更に寄宿舍制度は此の活きた社會と絶緣するものであつて、如何にも消極的な教育法であると考へられる。世の荒波に揉まれることによつて、始めて確固たる意志の鍛練も出來るのであるのに、努めて世の中に觸れしめまい、見せまいとする寄宿舍制度は、此の點から考へても感心できないことである。どうせ活社會に出て行かねばならぬ青年なら、學校時代に於ても實際社會に觸れしめて、之に對する相當の實地指導や教訓を與ふるならば、これほど有效なことはあるまいと思はれる。實に寄宿舍制度なるものは、大いに研究しなければならぬものである。所謂師範學校教育の全般を通じてゞはあるが、特に此の奇宿舍からでは師範型、教員型なるものの出所は、あるまいかとも考へらるゝ位である。

教員型の出所

第七節　教員の優遇

戰後の英國民は、今回の世界大戰によつて與へられた災害の最も甚だしいものは、幾百萬の壯丁を失つたことでもなく、幾千億の財

貨を費したことでもない、只それは實に十五億の人類の生活の不安を醸成した一事であると云つてゐる。十九世紀以後科學的産業の勃興と共に、既に人心の不安動搖は感ぜられて居た。しかしそれが顯著な生きた事實として實現されて來たのは、實に今回の大戰による物資の缺乏、物價の暴騰からである。

戰爭の醸した生活の不安

此物價暴騰の影響は、社會の各方面に亘つて各種の運動となり、各種の絶叫となつた。我が教育界にもその要求があり、その叫びがあつた。從來我が國の義務をのみ重んじて權利を主張することを知らなかつた教育者、武士は食はねど高楊枝式に清貧に甘んずることを唯一の道德と考へて居た教育者も、此の急激の物價暴騰には遺憾緘默することができなかつた。教育界に增給運動の聲をきいたのも蓋し當然のことであらう。

我教育界の動搖

如何に清貧に安んずるものでも、食はずに生きることは出來ない。管仲は倉廩滿ちて禮節を知り衣食足つて榮辱を知るといつたが、慥に一面の眞理は此の裡にある。生活に壓迫される程人間の心は荒んで行く。明日の生活に窮するものには道德もなく教育もない、只眼前にはパンの一塊があるのみである。閑暇あつて教育が行はれ、餘裕あつて道德が守られて行く。物價暴騰によつて生活が急激に困難となつた時、某都市の教員は放課後數個所の家庭教師に雇はれ、甚しきは數名共同してタイプライターを內職とし、登校前毎朝自働車を駈つて各華客を訪問し、其の注文を受けに廻つてゐたといふことである。かうして教壇に立つたとて、何でその教育に精神が籠らう。何處に人格の感化が行はれよう。教育は知識の受授でなく、人格對人格の教育であるところに眞の教育の價値があるのではないか。然るにかゝる心理狀態にあつて、どうして眞の價値ある教育を行ふことが出來よう。勿論これ等は教育者中の或少數人士の行動であるが、

小學教員の內職

小中學を通じて、一般教育者が其の當時物質的窮乏を感じたのは實に悲痛な事實である。今日各種の方法によつて幾分緩和された觀あるも、なほ未だその狀態を脱することの出來ないのも、亦疑ふ餘地のないことである。

人としての生活を要求す

吾人は教員に餘裕ある生活を與へよと叫ぶのではない。飽食暖衣は常に偉人を作る途でない。却つて不滿の境遇の裡に奮鬪の精神が頭を擡げ、不足の生活の中に努力の覺悟が產み出されて來るのであるから、教師に綽々餘裕ある生活を營ましむるだけの待遇をせよとは言はない。たゞ人として普通の生活を維持し得るだけの待遇を望むのである。今や我が國の通貨膨脹は益々甚だしくなり、物價の暴騰は停止するところを知らない。恐らく世界の通貨制度が變るか、大勢の安定するかを待つの外はないであらう。それにしても現在暴騰した物價が、戰前の如くに下落するなどといふことは有り得べくも思はれない。先づ現在の狀態を維持すると見るが適當であらう。日本銀行の調査に係る本年一月中東京物價指數は總平均三九八・〇〇で、前月の三八一・五〇に比し一六・五〇、前年同期の二七七・七三に比し實に一二〇・二七の昂進を見て居る。即ち最近一年間に於ける騰貴率は四割三分四厘に相當し、又本年一月のものを五年前のものに比較するときは、その總平均に於て實に三十二割九分の暴騰を示して居る。而して今もなほ下る傾向は見えず、むしろ上りつゝあると見なければならない。故に吾人はこゝに教員優遇問題の斷乎たる解決を望んで止まないのである。否此の問題を適當に解決しなければ、戰後教育の振興をはかることは蓋し不可能であるといつても過言ではない。

物價戰前に三倍す

屢々述べたる如く教育の根本問題は校舍の改築でもなく施設の完備でもなく、教科書の改善でもなく、たゞ教育者その人に優良なる

ものを得るの一事である。こゝに教育の改造も、革新も、進化も、發展も、等しくその萠芽を存するのである。教育者其人が優良であつたならば、實にすべての教育問題は自然に且つ良好に解決せられて行く。校舍も施設も教科書も問題でない、優良な教師は實に教育のすべてゞある。然るに今日の狀態を見るに教育界に人材の乏しいこと、實に悲しむべきものがある。稀に有爲の人材と目せられて居るものは、比々として他の事業に赴くといふ有樣である。轉職するものを責むるよりも、むしろ罪は轉職せしむるものにある。即ち優遇しないことにある。近時の師範學校入學者の激減は、此の教員優遇問題の未解決といふことが生み出した恐るべき結果であることは明かである。戰前に於ては常に募集人員の數倍に當る應募人員を有して、再度の試驗を通じて優秀なる人物を選擇することに努めて居た師範學校が、今日は應募人員が頗る減少し、入學準備金の給與其

優良教員は教育の總て也

師範學校應募者の激減

他の恩典を與へ、その入學を激勵しても、依然應募人員が募集人員の半數にも滿たないといふ有樣ではないか。かくて入學者の素質は益々低落し、有爲の青年は教育の業に携はるを潔しとしないで、他の社會に向つてしまひ、運轉手にならうか車掌にならうか、巡査にならうかそれとも教員にならうかといふ連中のみがふら〳〵と師範學校の門前へさまよつて來るといふ有樣である。改造の急を要しつつある戰後の新教育のために慨嘆に堪へない次第ではないか。

人心の改造は教育の力に俟つ、國家の發展は教育の成果に依ると叫んでも、これでは甚だ心細い。有爲の人物を教育界に集めようとするならば、どうしても優遇問題を適當に解決しなければならない。教育は趣味である。相當の待遇を與ふれば此處に安心の境地を見出して、自己の崇高な天職を樂しまうといふ人物も決して出て來ないといふことは無いのである。實に今日は教育の隆替の分るゝところ

教育興廢の分岐點

である。否國家の隆替の分るゝ秋である。一般國民、特に爲政者は、大いに國家の大計のために考ふる所がなければならない。

物價暴騰は我が國のみの問題ではない。又從つて教員優遇問題も勿論歐米諸國に於ても重要問題となつて居る。然しながらすでに前述した如く、米國に於ても英國に於ても、戰時からすでにこゝに着眼して、その優遇の實行に努めて居る。然るに我が國に於ては、從來に於ても他の社會より待遇の低かつた教育者は、戰時及戰後に於ても同樣なる狀態に苦しんで居る。勿論第四十議會に於て義務教育費一千萬圓國庫負擔案が通過したが、これ等は今日の窮狀を救ふためには餘りに微弱なものである。殊に一千萬圓の國庫負擔案の通過に際して、其の次年度に於ては更にこれが增額を期待されて居つたが、內閣の更迭とともにその財政方針を一變し、地方自治團體の經營に屬する事業は、宜しく其の自治團體の經費をもつて經營すべきであつて、國庫が濫りに補助するのは財政の紊亂を來すものであるとして、國庫負擔額の增加は勿論のこと、中等教員に對する年功加俸すら遂に成立を見なかつたのであつた。

貧弱なる國庫負擔

然し物價の暴騰は、地方自治團體が附加稅制限の極度までを課して、もつて學校教員の優遇を圖つてもなほ及ばなかつたので、更に其の制限を擴張して夫々優遇の途を講ぜしめた。しかし、さらでだに教育費が常に町村費の過半を占めてゐるその狀態の上に、更に五割の增俸を各市町村に命令することは、蓋し當を得た方法とは思はれない。現在これを實行し得ない町村もある。のみならず、徒らに教育費の膨脹は、市町村をして教育呪詛の怨言を發せしめる一導火線とならないとも限らない。これ眞に國家のために遺憾とすべきことではないか。市町村に餘裕なく、郡縣に餘裕のない場合、これを國庫の負擔とするは、義務教育の性質上當然のことゝいはねばならない。

地方教育費の膨脹

ない。次の議會に於て、澤柳博士其他の提出にかゝる彼の國庫負擔半額案を通過し、速にこれを實行し、以て今日の急を救ふべきである。

菲薄なる中等教員を待遇

中等教員の待遇は、小學教員のそれに比して尙甚だしく劣つて居る。澤柳博士は嘗て帝國教育會に於て調査委員を設けて、中等教員の俸給に關する調査報告を示して、小學教員の俸給は義務教育費國庫負擔法の實施による增俸を通算すれば、明治四十二年以來凡そ十年間に約五割の增加を示して居るが、中等教員の增俸率は同期間に於て僅に一割五分に過ぎない。更に大正二年より七年に至る五ヶ年間に於て、日常生活に必要なる物品は約八割の騰貴を示して居るにも拘はらず、同期間に於ける中等教員の增俸率は一割にも達してゐない。僅に五六分に過ぎない有樣であるといつて居る。小學教員は勿論、中等教員及びその他の教員に對して、これが優遇の途を講ずることは、實に國家及び國民の責任でなければならぬ。

教育改造の第一歩、教育振興の第一策として、師範教育の改善とともに、吾人は教員の優遇をもつて焦眉の急務となすものである。

第八節　國語國字の整理

大なる社會問題

我が國の教育に於て特に重要な問題は國語及び國字の整理である。之は一方からいへば、國家にとつて大切なる社會問題であるが、又一方からいへば、大切なる教育問題でもある。此の問題が一日も速に片付かぬうちは、我が國の教育の效果は、到底歐米諸國に於けるが如きものを見ることは出來ないであらう。吾人は世の識者が此の問題に眼を向け、一日も早くこれを解決せられんことを切望してやまないのである。

抑々此の國語國字に關する改革意見の現はれたのは決して近頃の

ことではなく、可なり久しい以前からのことである。すでに慶應年間に於て、前島密は之が改革意見を徳川慶喜に建議したことがあつた。それから明治二年には南部義籌なるものが、文部省に對して屢々漢字全廢の急務を建議した。文相大木喬任も亦漢字節減の意見を懷いて、明治五年委員に命じて『新選字書』と稱する一書を編輯せしめたことがあつた。其翌年卽ち六年には、かの明六社同人西周がその明六雜誌に於て、『洋字を以て國語を書するの論』と題する論文を載せて、ローマ字説を主張した。これが我が國に於けるローマ字論の嚆矢であつた。此頃また森有禮は、英語を以て國語に代へようとする意見を發表し、福澤諭吉は『文字の敎』に於て漢字節減論を發表した。今福澤諭吉の意見の大要を言つて見ると、『日本には假名があるのに漢字を混用するのは甚だ不都合である。然しながら漢字全廢も理想としてはよいけれども、今急に斷行するといふわけには

種々の改革意見

福翁の文字の敎

行かぬ。そこで當分は漢字の中にて二千か三千かの極めて容易の文字だけ用ふることにして、なるべく漢字を用ひないようにするがよい』といふのである。更に翌七年には漢字を廢して假名を專用しようといふ論が起り、政府は又文體統一の建議を地方官會議に諮詢した。その後佐賀の亂や西南役等のために此の問題も暫らくそのまゝになつてゐたが、明治十四年に至つて再興を見るに至つた。卽ち『かなのとも』といふ團體が新に組織せられて假名專用論を主張し、十六年三月には其主意書を發表した。一方には又『いろは會』や『いろは文會』や『いづらの音』等の團體が出來て、大いに假名專用論を主張したが、十六年七月には此等の數個の會が合同して新らしく『かなのくわい』を起し、『言語は和漢古今外國のものを論ぜず、成るべく今の人の耳に入り易きを取つて記す』といふ綱領によつて研究を進めた。かくて一時之に關する論爭は世人の注目をひいたが、二

假名專用論

十年頃に至つて遂に萎靡として振はないようになつてしまつた。又ローマ字會は明治十七年十二月に組織せられ、一時非常なる勢で、數千の會員を有するに至つた。かくて漢字全廢、ローマ字專用の論は時勢に掉さして益々盛んになつたが、二十一年頃に至つて保守的運動の起るに際し、遂に之に敵し衆ね、消滅の悲運を見なければならなかつた。

ローマ字論

言文一致の主張

『かなのくわい』もローマ字會も滅んで、一時國語國字問題は中絶したけれども、間もなく言文一致の主張を見るに至つた。而も明治二十三年には小學校令の改正があつて、國語教育に大改良を加へ、國語をもつて普通教育の須要學科とするに及んで、國語國字の改良に對する論議は再び復活した。文相井上毅國語教育を奬勵するに當つて、此の問題は愈々盛となり、日清役の後に於ては再び漢字全廢論の現出を見るに至つた。かくて明治三十二年には帝國教育會は國字改良部を設け、其翌年には同會の名を以て國字改良に關する請願書を貴衆兩院並に内閣に提出し、次で根本正外五名より同樣の建議案を衆議院に提出し、又加藤弘之より貴族院に提出した。而して兩院は共に之を修正可決した。かくて翌三十三年八月には文部省は小學校令及其施行規則を改正して、國語問題に對して一解決を與へた。

國字改良の建議

即ち

一、假名の字體を一定し、變體假名を廢して、平假名片假名の二種に限定したこと。

二、漢字數を千二百餘字に節減して、小學校教科書は、此の制限内に於て編纂することにしたこと。

三、字音假名遣を表音式に改正したこと。

漢字制限

此等の三點がその時の主要點であつた。その後文部省は此等の問題を研究するために、國語調査準備會なるものを設けて調査研究せ

しめた。更に明治三十五年三月には國語調査委員會新設せられて、益々此の調査をなさしめた。當時一般教育界に於ては、國語假名遣を字音假名遣と同一にするがよいとの要求が頗る盛であつた。かくて三十九年十二月にはそれ等の大改革案を文部省より高等教育會議に諮問した。そして同會議に於ては大多數を以つて可決したけれども、貴族院その他からの反對が猛烈であつたため遂に斷行することができなかつた。そして文部省は四十一年五月に臨時假名遣調査委員會なるものを設けて之が調査を委囑した。然るに同年九月に至つて內閣の更迭があり、小松原英太郎文部大臣となるに及んで、遂に折角の一進歩であつた彼の三十三年の制定にかゝる假名の字體、漢字節減、字音假名遣に關する三種の規定を廢して、全然舊の如く復してしまつた。かくて、數十年來の努力によつて折角かくまで實行し、又研究して來た國語國字問題も遂に何等の殘るものなく、全く

假名遣の改正

全く頓挫し了る

逆轉してしまつたのである。まことに遺憾の至りといはねばならぬ。而して爾後今日に至る迄遂に此の問題に關して既往の如き盛んなる研究論議を見ることの出來ないのは、重ね〳〵殘念の至りである。

抑々歐米諸國に於ても國語問題は存するけれども、我國のそれの如く紛糾錯雜せるものは稀であつて、皆著々と解決せられ、相當に立派な成績を擧げて居る。然るに我が國に於ける此の問題は、その困難の程度に於ては到底歐米諸國の比でなく、極めて困つた問題である。標準語の制定、文體の統一、國字の改善、假名遣の改正、その他送假名、句讀の整理等に至るまで、皆緊急なものばかりである。

我が國內に於ては、言語は地方によつて多少づゝ異り、種々の方言をも有するのであるが、大體から見ても、關東と關西との間にはかなり著しい相違を有して居る。發音の上から、語彙の上から、又發表の形式卽ち文法の上から、同じくないものが少なからずある。

極めて困つた問題

標準語

然しながら現在に於ては、先づ東京語をもつて標準語と定められて居るのであるから、その點は一應解決して居るといつてもよい。けれども更に考へて見るに、東京語なるものにも種々のものがあつて、決して一樣ではない。假令中流階級以上に行はれて居るものと一口には言つても、さて具體的にいふ段になると曖昧なものといはねばならぬ。而も又それ等のものが、發音上から見て、語彙上から見て、文法上から見て、すべて正確な標準を有するものゝみであるかといふと、さうも斷言されない點がある。こゝに至つて標準語の制定については尙一層の努力を要するものがあり、又その普及については殊に努力を要する。

文體の不統一

更に文體の不統一に至つては誠に甚しい。話す言語と書く言語と多少の相違を有することは已むを得ないとして、現在我が國に行はれて居る文體を見ると、その多種多樣なるに驚くの外ない。普通文體のもの、書簡文體（候文）のもの、漢文直譯體のもの、或は又和漢混用體のもの、洋文直譯體のもの、言文一致體のもの、韻文體のもの、古文體のもの、公用文及び商用文體のもの等種々雜多である。更に同じく普通文體といひ、言文一致體等といふものも決して一樣ではなくて、更に種々の文體をなして居る。例へば言文一致體といつても純粹に談話體のものと、又談話體と普通文體とを折衷したやうなもの卽ち演說體のものなどがある。更にその折衷體のものについても、その兩方面の分子の多少によつて又多少の異つた文體を呈することになつて來て居る。かくの如く現在の我が國語は、極めて多種多樣の文體を有して居るのであるが、此等は是非速に統一整理しなければならぬものである。吾人の見る所では、大體から言つて言文一致體をもつて標準文體と定むべきであると思ふ。尙已むを得ず、假りに普通文體を、書く文體の一種として許すとしても、書簡

言文一致を標準文體とせよ

文體、公用文體その他雜多の文體は必ず之を前者に統一してしまはなければならぬものと考へる。理想としては、談話に於ても書く場合に於ても、同樣な言文一致を用ふるがよいのであるが、然しその話す場合と書く場合とに於ては、同じく言文一致體といつても、多少の相違を生ずることは免れないであらう。兎に角標準文體の制定統一も、亦實に大切なる問題である。

國字問題

國字問題に至つては、實に我が國語問題中の最も重要且つ困難の問題である。現在我が國に於て最も普通に行はれて居るものは片假名、平假名、漢字の三種であるが、或は漢字を全廢すべしと唱へるものがあり、假名のみを用ふべしといふものがあり、或は又ローマ字を採用すべしといふものもあれば、更に國字を創作すべしと唱へるものもある。かゝる改革論を唱へるに對して、又一方には現狀維持論者もあり、而もその中に於ても多少進歩的態度をもつて漢字の節減整理を企圖せんとするものもあれば、片假名を廢して平假名と漢字とを併用すべしと唱へるものもあつて、急激派、穩和派、保守派が互に種々雜多の論爭をなして居る狀態である。確に漢字は國字として最も不適當のものであると思ふ。たとへ一得があるとしても十失があるならば、その一得をも割愛しなければならぬ。今日我が國の國語教育、或はも少し範圍を廣くして教育の効果の不成績であるのは、全く此の漢字の障害といつても敢て過言ではあるまい。

漢字は不適當なり

上述の諸種の國字改良論について、その是非を一々こゝに述べる餘裕を有しないが、要するに吾人は今の所ローマ字論が最も優れて居るように考へる。兎に角此等の國字改良の意見が益々研究せられ主張せられて、一日も速くその實行の期に入らんことを切望するのである。然しながら、國字問題解決の方針を考究するとしても、急激に改革し得る事ではないのであるから、一面國字改良の方針を定め

國語教育か文字教育か

てそれに努力するとともに、又一面に於ては漸次漢字の節減や整理を斷行して、愈々其の理想に近づくことにしなければならぬ。從來の國語教育は文字教育の如き觀を呈して、言語教育や讀書教育に對する努力が缺けて居つたが、それでは眞の國語教育を誤るものであり、延いて教育の效果を減退せしむるものである。國字問題の解決は、殊更に大切なるものである。

厄介な假名遣

假名遣も亦厄介な問題である。我が國古來の歴史的假名遣に對して、その煩雜を避けんため表音的假名遣を採用することを主張するものがある。すでに前述の如く明治三十三年に於ける文部省の改正は之であつた。然るに之に對してやはり變なる國粹保存主義を唱へて、歴史的假名遣を用ふることを唱へるものもある。明治四十一年に於ける文部省の假名遣復舊は、此の意見に基いたものである。すべて改善とか革新とかいふものは、決して社會の慣用とか舊來の因襲とかにとらはれてのみ居ては出來るものではない。寧ろ其の慣用や因襲を打破しなければならぬ。吾人は今後再び改善の機の來ることを切望してやまないのである。

送假名と句讀

送假名や句讀等についても、區々意見の相違があつて統一する所がない。此等についても一日も速く整理統一する所がなければならぬ。

歎乎たる改革を要す

以上我が國語國字の問題について略述したのであるが、此の問題はただに教育問題として重要なるばかりでなく、實に國家の社會問題としても重要なるもので、之を未解決のまゝ放つて置くことが、どれだけ我が國の教育的效果を減殺するかを考へる時、その斷乎たる改革の行はれんことを熱望してやまないのである。

第九節　教育の實質内容の改善

教育理想の改造

此の問題は甚だ廣汎であつて、これだけについても一册子をなすに十分であると思はるゝが、こゝには極めて要點だけをその主要なる部分について述べて見ることにする。

教育内容の改善について先づ第一に考へなければならぬことは、教育理想の改造でなければならぬ。勿論教育理想としてこれを抽象的に論ずる場合には、そんなに絶えず變更され改造さるべき筈のものではない。然しながらその理想の内容としては、時により狀況によつて變つて行かねばならぬものである。教育とは何ぞやといふことについては、すでに前に第二章第一節中に述べた所であるが、更に之を再言すれば、教育とは成年者が未成年者に對して、その社會發展の上から、又個人完成の上から、現時代の文化を傳達して、彼等をして現代の社會に適應せしむると同時に、更に彼等自ら新らしい將來の文化を創造するに必要なる能力を與へんとする有意的具案的影響である。而して此の場合に於ける所謂社會なる語は國家を意味し、又人類の世界を意味する。

古い國家主義と新しい國家主義

從來に於ける偏狹なる國家主義に於ては、ただ自國の隆盛をのみ考へて、そのためには他國の滅亡も、生命や財寶の喪失も、敢て顧みなかつたのであつた。然しながら斯かる偏狹なる思想はすでに今日の時勢に於ては到底容れられるものではない。人類はすべて共存的に相互の幸福を望み合ふことによつて、始めて最後の幸福眞の幸福に到達することを思はねばならなくなつたのである。此のことについては、すでに本章第一節の緒論に於ても述べた如く、今後に於ける國家の發展は、どこまでも一方人類全體の發展と併行して行くものでなければならぬことを切に感ずるのである。

人道的國家主義

人道的國家主義こそ、眞の國家及び個人の辿るべき道でなければならぬのであつて、教育の大理想も矢張りこゝに存するのでなければならぬ。由來我が國民には鎖國的排外的根性が根深く

貯へられて居るのであるが、この根性を教育の力によつて除去することは、實に今後の教育に於ける重要點でなければならぬ。かくて大國民たる餘裕ある思慮ある、而して世界人類の幸福のために率先指導し得る底の國民を造る抱負を有することが必要である。

教育理想を實現すべき手段

更に此の教育理想の改造に關聯して、民主々義と教育、社會問題と教育、産業立國主義と教育等の重要問題を考究することが、今後の教育内容改善上の主要點でなければならぬ。然し此等については すでに緒論に於て幾らか述べて置いたので、紙數の都合上こゝには遺憾ながら割愛することとし、此等諸種の形をもつて現はれたる教育の理想を實現すべき唯一の手段、これについて述べて見たいと思ふ。どんな立派な國民を造るとしても、又どんな立派な世界民を造るとしても、要するに人間は個人なる一個體を出でないのである。一個人が、その見方によつて、或は國家の一分子たる國民とも考へられ、世界人類の一員なる世界民とも考へられるのである。だから善良なる國民及び世界民を造らうとするには、たゞ善良なる個人を完成するより方法はない。こゝに於て教育の理想は、又個人の完成にあるとも考へてよい。個人の有する本領を最善に發揮せしむることと、之が教育の理想でなくてはならぬことゝなる。何といつても自我實現が人間の終局の目的と信ぜられる以上、個人の本領天分を十分完全に發揮せしめることより外に教育の理想を見出すことは出來ない。

唯だ個人の完成あるのみ

兒童本位の教育

かくて從來の學校本位の教育から、兒童本位、生徒本位の教育に移らねばならぬことは自然の理である。兒童生徒を本位とし中心として、教育の理想も、その内容に至つては、彼等を研究したる事實によつて充塡しなければならず、その方法に至つては、無論彼等の性質上の事實によつて決定しなければならぬのである。されば今後

に於ける眞の新教育を施す上に於て、兒童或は生徒卽ち被教育者そのものゝ研究は極めて大切なことゝなつて來る。彼等の天性を理解することの如何によつて、教育の效果も定まるといつても過言ではない。然るに今に至るも尙兒童の心理は大人の心理を理解することによつて知られると思つて居る人達の多いのには驚く。これ等の人達は兒童は大人の縮圖であるかの如く考へて居るのであるが、そのことの誤謬であることは今更論ずるにも及ばないことであつて、その身體上に於ても精神上に於ても、兒童は決して大人の縮圖ではなく、兒童は又其時期獨特の本質を所有して居るのである。單に量の上の相違ばかりでなく、心身上、質の上に於ても著しい相違を有して居るのである。だから大人を知ることによつて兒童を知ることは決して不可能である。新教育は先づ第一に生長し遊び學びつゝある兒童を對象とする心理學に基礎を置かなければならぬ。少しでも多く兒童を理解する方法を發見し開拓したものは、最も多く教育に寄與したものといつてもよろしいのである。從來の教育學に滿足し、兒童に對する研究をしないで、たゞ學校の組織とか系統とか經營とか、或は又教材とか教授法とかにのみ注意を向けて居るものは、新教育の方向を知らないといふばかりではなく、むしろ新教育の發達を妨げるものであるといつてもよい。

新教育の基礎は兒童心理學

從來の教育者は餘りに兒童研究を怠つてゐたといふよりもむしろそこに注意が向かなかつた。從來の教師が一番苦心したことは、如何にして教材を兒童に完全に會得せしめるかの術の研究であつた。そして眞の兒童の開發教養をしようといふ點ではなかつた。教師の注意は常に知識の材料及び自己の教授の技術に向ふことが過度であつて、兒童そのものに向ふことが至つて少なかつたのである。今後の教師は先づ何よりも眼を兒童そのものに向けることが第一着手で

舊教育の缺陷

なければならぬ。從來の心理學は此の點について甚だ心細いものといつてよろしい。これでは眞の教育の要求を滿すことは到底不可能である。從來の心理學は餘りに抽象的であり、定義的であり、議論的であり、且つ大人の心意を細密に分析することのみを主として居る。これでは教育の助けとするには不十分である。そこで教師は單に此等の從來の空漠な抽象的な心理學のみによることなく、むしろ眼前にある生きたる兒童を有らゆる方面から研究して、もつて充實せる有效なる經驗的兒童學（澤柳博士の命名をかりて）を建設し、眞の新教育を施す有力なる基礎としなければならぬ。

先づ兒童を研究せよ

教育の目的はいふまでもなく單なる知識の授與ばかりではなく、被教育者をして常態の發達をなさしめ、その個性と天分とに基いて最大の成熟と健康とに到達せしむることにある。而してそのためには彼等の遺傳性を十分有力に發現せしめ、新衝動及び理想を教養し道德的興味を刺戟しなければならぬ。而して此等の仕事は彼等が最もその影響を受け易い時期を選ぶことが必要である。今此の教育の目的を遂行するために、その手段としての知育、德育、體育上改善しなければならぬ點について略述して見よう。

知德體育上改善すべき點

知識を授與すること卽ち知育は教育の一部分であるが、學校教育に於ては特にその重要な地位を占むるものである。知育の目的は今更いふ迄もなく、知識のための知識の授與にあらずして、人間陶冶のために必要なる知識の授與である。だから知識の教授に於ては、その教材や教授法の研究は勿論必要であるが、更に如何にして之を以て被教育者の心意を開發し、生長せしめ、人格化せしめることができるかを考究することはより大切である。卽ち常に教育の目的に合致し、それと併行する知育を施すことについて考究することが大切なのである。

知識の寶庫を開く鍵

更に知識の教授に於ては、知識そのものよりも知識の寶庫を開く鍵を與ふることがより必要である。知識の寶庫を開く鍵とは卽ち興味である。興味は實にすべての心意發展の源泉であつて、これによつて自ら創造し發見し研究して行くのである。實に興味は知育の第一原理として、被教育者に之を起さしめ、又これに從ふことを許容しなければならない。興味は彼等の心意に本能として湧き出でるのであつて、而して此の興味にはそれ〴〵特に盛なる時期を有して居るのである。前の段階にある興味が十分に滿足されて、次の一層高い段階の基礎を造り終れば、その興味は變形するか又は消滅してしまふ。だからその時期に於ける興味を了解して之を利用し、もつて教育殊に知育を施して行くことは、最も有效なる教授をなす所以であり、又最も學習にとつての經濟的方法である。だから教材からして先づ被教育者の發達段階に最もよく適したるものを選ぶことにし、

動的本能を利用せよ

假りにも大人の考から割出して論理的要求によつてはならない。凡そ兒童の精神活動は遊戯、興味、行動及び感情が土臺となるのであるから、知育に於ても是等の動的要素を出來るだけ利用することが必要である。そして教授の材料は內容が豐富であり、滋養分にも富んで居ることが第一の要件であつて、大人の考案に從ふ形式上の精細なことや順序立つたことは不必要である。彼等の心意に絕えず養料を供給して之を活動狀態に保つて居れば、彼等は彼等自身に之を利用し、其の順序をも決するのである。だから教師の側からいへば、常に彼等生徒の心意に最も適當なる養料を供給することがその主なる技術であるといふことができる。そのためには教師に豐富なる學識と、而もその知識が最も彼等に適したる形に組成されてあることと、尙隨時に之を使用することができるといふ準備があることが必要である。教師は此等の知識を、自由な活氣の滿ち〴〵た興味津々

たる發表法によつて教授し得るの技術がなければならぬ。

論理に走るの弊

心意發達の段階に照して、未だその時期の來ないのに早くも論理的順序によつて知育を行ふといふことは、心意の自然的發生的順序を破壞するもので、實に教育上に於ける大罪惡であるといはねばならない。然るに今日の教育の實際に於ては、此の罪惡を敢て犯して居ると見られるものが少くないのである。殊に兒童を對象とする教育に於て最もこの憂が存して居る。小學校に於ける學科課程は此の點に於て速に大改善大整理を要する。尋常一學年から修身を課し、算術を課し、書方を課して居ることや、又理科を遲く四年から課して居ることなど、皆その主なるものであらう。思考作用や道德的判斷力や美的判斷力等の尙未だ發達してゐない兒童に向つて、すでに論理的に組織されたる修身、算術、書方等を課することの不自然であることは明かなことであつて、又理科を四年まで後らして兒童と

小學校の學科課程は大改造を要す

自然との接觸を中絶するといふも更に不自然なことである。自然が如何に兒童に接近して居るものであるか、又兒童が如何に自然に親しみ、それに興味をもつて居るものであるかは、彼等の平常の遊戲行動を觀察したものゝ等しく承認することであらう。要するに此等の學科課程は、第一に兒童の心意發達の段階と照合して、そこに自然的なる新課程案を得なければならない。參考として吾人の信ずる且つ主張する學科課程案を左に表示しよう。

學科課程改正案

文人	尋一	尋二	尋三	尋四	尋五	尋六
國語	聽方…… 讀方…… 話方……	聽方…… 讀方…… 話方……	聽方…… 讀方…… 綴方…… 話方……	〈修身…… 歷史（日本）…… 國語…… 讀方…… 綴方…… 話方……	修身…… 歷史（日本）…… 國語…… 讀方…… 綴方…… 話方……	修身…… 歷史（世界）…… 國語…… 讀方…… 綴方…… 話方…… 書方……

科					
自然科	音樂……遊戯體操……圖畫手工……	音樂……遊、體……圖、手……	音樂……遊、體……圖、手……	音樂……遊、體……（生理衛生）圖、手……	音樂……遊、體……（生理衛生）圖、手……（裁縫）
自然科	算術……	算術……	算術……	算術……	算術……
自然科		地理（鄕土誌）……	地理（日本）……	地理（日本）……	地理（世界）……
理科		博物……物理……	博物……理科（物理）……	博物……理科（物理）（家事）……	博物……理科（物理）（家事）（化學）……
理科		理科（物理）……	理科（物理）……	理科（物理）（家事）（化學）……	

改正案の說明

右教科課程案が現行のものと異る點について、簡單にその所以を說明しよう。先づ修身についていへば、現行のものでは尋常一學年から課してあるのに、吾人は尋常四學年から課することにした。之は決して修身を輕んじたのではなく、むしろ重んじたが爲である。兒童の精神發達の程度に考へて、教訓的取扱をなす修身は尋常四學年以後に於てなすこと丶し、その以前に於ては童話、歷史談、事實談等によつて、主として兒童の道德的感情を陶冶し、又自由なる道德的判斷をなさしめようとするのである。

聽方とは何ぞ

又國語に於て尋常一學年から三學年まで聽方といふを入れた。之は初步の國語教育は、文字教育といふよりはむしろ言語教育にあるので、從つて教師の精練されたる話方（或は讀方）を聽かせることによつて、彼等の言語を聽取する能力を銳敏にし、精細微妙なる語感を養ひ、尙普通ひらるる語彙を豐富に領得せしめるのである。而も此の際教師によつて話さる丶（或は讀まる丶）材料は、最初は童話卽ち神話傳說假作物語の類から、次は事實談或は歷史談と進むのであつて、此等のものが兒童にとつて無上の正しき享樂であり、而もそれは彼等の想像力及びその他の觀知を銳敏豐富ならしむると共に、一面道德的判斷をなさしむるの機會も多く作り、やがて修身科の基礎となり、又歷史科

世界歷史を授けよ

教授の土臺をなすのである。歴史は從來の課程でも尋常五學年から始め二ヶ年間に日本歴史を全部授けることになつて居るが、自分は一ヶ年早く卽ち尋常四學年から始めて二ヶ年に日本歴史を終り、尋常六學年に至つては日本歴史の復習整理旁々日本中心の世界歴史を授けることゝした。之は歴史教授を尋常四學年から始めることの何等困難でないことゝ共に、今後の國民は是非とも世界の歴史の大要についても知つてゐなければならぬと思ふからである。

綴方と書方

綴方を一年晩く尋常三學年から課することにしたのは、聽方讀方によつて先づ理解せしめ、傾得せしめ、鑑賞せしめ、彼等の思想を豐富にし、話方に於て言語による發表練習をなさしめ、特に文字をかりての發表はそれ等の後に來るべきものであると思ふからである。書方を尋常四學年に於て始むることにしたのは、之を全く輕んじたといふだけでもなく、兒童の之をなすに適當なる發達段階を待つたまでのことである。遊戯體操に於ては、單に從來の如く積極的鍛練を施すばかりでなく、消極的方面についても體育の實を擧げたいと思ふ。そのためには雨天などに於ける體操時間をもつて生理衛生に關する教授をなし、體育の理論についても相當の知識を與へることにしたいと思ふ。

圖畫と手工

圖畫と手工は之を全然別といふことにせず、Constructive art の意味に於て同一教科と見做し、相互の連絡を密接ならしめたい。又女子の裁縫は尋常三學年から始むるのは時期が早過ぎるのではないだらうか。それより尋常五學年より始めて幾分時間を增した方が有效であらうと思ふ。

自然科とは何ぞ

次に最も著るしいことは尋常一學年から自然科(Nature Study)を課したことである。此の科は最初に於ては算術も地理も理科も含んだ意味のもので、而もそれ等の科學的陶冶の基礎を與ふること以外に範圍は猶廣く、情操陶冶の手段ともすべきものである。尋常二學年に於て算術は獨立することゝなる。これは兒童の

數觀念の發達、思考作用の發達に根據を置くもので、而も算術教授が自然的合理的に行はれる爲には、豐富なる且つ整頓せる經驗的具體的基礎を有するもので、尋常一學年に於ける自然科は之に對しての任務をも含んで居るのである。尋常三學年に於て地理を獨立せしめた。これは鄕土誌を授けるのであつて、地理教授の基礎はこゝで築かれなければならない。尋常四學年五學年に於て日本地理を終り、尋常六學年に於て日本中心の世界地理を授けることゝした。蓋し今後の世界の舞臺に活躍する國民としては、たとへ概略なりとも、世界地理についての知識が無くてはならぬからである。殊に我が植民地とか、關係の深い諸國については、最もその必要が多いのである。

地理教授

自然科は尋常三學年に於て所謂理科となり、最初は兒童の最も親しみ最も接近せる動物植物等の博物教授から始め、漸次玩具や日常品等を利用して物理化學に導き入れるのである。勿論理科といつても

博物より理化學へ

自然研究の意味に於てなされなければならぬことは言ふ迄もないことである。尙尋常六學年に於ては物理化學等の應用になれる工業の大要についても、實地工場などについて授けなければならぬことは、特に今後の教育に於て必要とする所である。

以上小學校の學科課程についてその改善案を略述したのであるが、こゝに特に之を述べた所以は、小學教育がすべての教育中で最も重要なもの、又基礎となるものであるといふ意味からと、此の學科課程の問題は小學教育改善問題中の最も重要なるものであるからである。これによつてたゞに學科課程の改善が企圖せられるばかりでなく、實に各科教授の大方針についての考究も企圖せられるからである。

科學的陶冶

更に一般的に知育として論ずべきことは、今後に於ては大いに科學的陶冶を重んじなければならぬことである。一體に我が國民は、

此の方面についての國民性的缺陷を有して居る。彼の科學の進歩せる米國ですら、尚戰時及び戰後に於てその科學教育の振興を叫んで居るに對して、從來より遙に遲れて居る我が國が、此の點についてどうして努力しないでよいであらう。今回の大戰に於て、交戰諸國が必死の勇を鼓しその科學を利用して奮戰したことは、未だ吾人の記憶に新らしい所であつて、一朝有事の場合に際して、科學が如何に大なる貢獻をなすべきものであるかといふことも十分明確に知ることができた。勿論科學の勃興は戰爭に利用するためではなく、むしろその國民の文化を向上せしめ、産業を隆盛ならしめ、經濟を豐富ならしめるためのものである。いふまでもなく一朝の大變に際しては生命も財貨もなげうつ位であるから、科學を利用することは當然のことである。然し之が科學教育の直接目的でないことは今更論ずるにも及ぶまい。戰後益々産業の勃興をはかり、諸國はその經濟

戰に於て世界の覇權を握らうとあせつて居る今日、我が國も亦この經濟戰に參加して優勝の地位を占める十分なる覺悟と準備がなければならぬ。而して其の準備として先づ缺くことの出來ないのは此の科學教育を勃興せしめるといふ事である。このためには小學教育から中等教育に至る理科教育を改善することも慥に一つの仕事であるが、其他の教科に於ても、絶えず精密正確を尊び、眞理を貴び愛する精神を養ひ、もつて科學教育の徹底をはかることが大切である。

科學教育の振興はかくの如く大切であるが、然し若し餘りに之に偏して今少し廣い文化建設の意義を忘れるに於ては、それこそ由々しきことである。低級なる實利主義や物質主義に流れて、淺薄なる人間を作ることが教育の主なる仕事となされるに於ては、國家の眞の發展は決して覺束なく、高い貴い文化國はたゞ夢に終つてしまふであらう。科學教育の振興は極めて時節柄大切であるが、若しかく

情操教育

の如く誤つて教育の低下墮落を來すに於てはむしろ害こそ多いといはねばならない。だから一方科學教育の振興をはかつて國民の理智を發達せしめるとゝもに、又一方大いに古典的文學的藝術的情操的教育の振興をはかつて、より高い感情の修練をしなければならない。此のことは特に忘れてならない事柄である。

專制的訓育法を排す

徳育については改善すべき點が甚だ少くない。先づ從來の專制的壓迫的訓育法を排して、被教育者自らの發動による修養を導かなければならない。外部からの壓迫による徳育は、決して效果を永久に維持する所以でなく、一時の服從或は盲從か、さなくば虛僞の服從、見えの道徳となり終るのである。機械的の習慣なるものは從來考へて居つた程道徳上有效なるものではなく、むしろ自由なる判斷力こそより必要なるものである。彼等が自ら自由に判斷し決定し行動する所に眞の道徳は存するのであるから、徳育の最良の方法としては、

自由に判斷せしめよ

やはり被教育者を自由な境地に置いて、自ら判斷し決定し行動するの機會を多く與へなければならぬ。かくして教師は此の際單なる援助者暗示者として傍觀の位置にあらねばならぬ。教師自ら自己の虛僞の生活（道徳上の）を顧みず、口にのみ道徳の美を稱へ、之を生徒に强ひたとて、決して效果のあるものではない。若し教師が眞の人格者であるならば之に越した結構なことはない。自ら修徳の工夫をこらして、もつて間接に生徒によい暗示を與へるがよい。若し教師自身に模範となるの自信がないならば、その時は僞善を行ふよりもむしろ、或程度まで赤裸々に生徒に自己を示し、而もそれとゝもに自己の之についての修養の事實をも知らしめることにするがよい。教師とても人間である以上、少なからぬ缺點も有して居れば醜い心もつて居らう。然し之を隱蔽することはよろしくない。いつかは必ず暴露するものであるから、むしろ最初より普通の人間として、

教師先づ假面を脫せよ

德に進まうと努めて居ることを知らしめる方がより有效であつて、教師自身にとつても心苦しくなくてよい。そして教師も生徒も、共に〳〵修養しようといふ覺悟と意氣込とを見せる方が、どれだけよいか知れない。世に僞善の教師の多いことは、この德育の效果の擧らないことを示す證據なのである。

學校に於ける自治制

學校に於ける自治制は、たゞに公民的訓練の上に有效なばかりでなく、實に德育全體の上から見ても願はしいことである。教師の專制を排して、生徒兒童の自由と自治とに信賴して、始めて眞の德育の效果は擧がるものである。專制壓迫のもとには、決して人格の發現を見ることは出來ない。

修身教授の缺點

尙德育の效果の擧らないことについては、從來の修身教授殊に小學校初步に於けるそれが惡かつたと思ふ。未だ道德意識も發達せず、判斷力も備はらない兒童に對して、完全無缺なる、而も進んだ道德（對他的道德の如き）を强ひるといふことは、却つて道德を機械視し、道德に對して言ふべく行ふべからざるものとの誤信を與へ、道德に對する無神經を來す所以である。このことは前に學科課程案の所にも述べた通りであつて、速に改善を要するものである。

偏狹なる國民道德を鼓吹することをやめ、眞正なる國民道德の徹底を期しなければならぬ。而して眞正なる國民道德とは、人道そのものと何等の矛盾も撞着もなく、むしろ合致すべきものであるべきである。かくて國民として國家の發展を希望し、之に努力するの愛國心を得ると共に、自由平等博愛、もつて人類全體の幸福を企圖し、之に努力するの心を養ふことは、特に今後の德育に於て一層努めなければならぬ事柄である。

體育を奬勵せよ

體育は今後に於て一層盛にしなければならぬ所のものである。たゞに戰爭に於て人の健康が必要といふのではなく、平時に於ても健

康は極めて重要なるものであつて、その國民にとり、その國家にとつて、仕事の能率は一に此の健康によつて分るゝといつてもよい位である。如何に智能が優れて居つても、その智能を十分に役立たしめることの出來るものは健康である。

優秀なる子孫を得るため

健康はたゞにかくの如く一個人の仕事の能率を高むるばかりでなく、實に遺傳的に優秀なる子孫を得るの途であつて、その質に於て優れ、又その量に於ても多くの次代國民を得ることは、今後に於て特に必要なことである。國民體育の問題はかくの如く、現代の國民に直接關係あるばかりでなく、實に次代更に永遠の將來に深い關係を有する問題である。世界各國今や擧つて國民體育の向上振興に努力し、もつてその健康を增進せしめるとゝもに、人口の增殖をはかり、且つ質の優秀を望んで居る。

我が國民の體力は近時年々低下しつゝあるとのことであるが、これでは甚だ心細い次第である。大いに之が向上をはかつて國民の能率を高むると共に、又優秀なる子孫の繁殖をはかつて、もつて大いに世界に雄飛する所がなければならぬ。英國は本國の四十倍の植民地を有して、もつて今日の强大を致して居ることを考へなければならぬ。我が國民も、男子といはず女子といはず、健康なる身體と優秀なる頭腦とをもつて大いに海外に發展しなければならぬ。稀に我が國民の海外に於て勢力を有するものといへば、それは下級勞働者かさもなくば醜業婦である。これではまことに嘆かはしい次第ではないか。

大に海外に發展せよ

扨て國民の體育を盛にするためには、先づ國民をして之が必要を十分に自覺せしめなければならぬ。何等の自覺なき體育は、單に所謂『學校體操』となり終つて、學校の校門を一歩出づれば最早行はれないものとなつてしまふ。これでは體育も何の效果をも奏しない

自覺なき學校體操

であらう。學校を出ても、家庭にあつても、事務室にあつても、田畑にあつても、常に有效なる體操、これこそ眞に體育のための體操であらう。從來の體操については研究すべき餘地が少なからずあると思ふ。近時體育熱の盛なるにつれて種々の體育法發明せられ宣傳せられ、或は何々式と唱へて、學校に、道場に、所々に流行を見て居るのは一面大いに喜ばしいことであるが、一面またかゝる渾沌たる狀態にあることは、我が體育のために悲しむべきことで、大いに權威ある立派な體育法の研究せられ、生れ出でんことを望んでやまない次第である。

遊戯を重んぜよ

今後の體育に於て、遊戯を今一層重んぜねばならぬことは、確實な眞理であらう。遊戯卽ち興味と結合したる體育法、これこそ眞に生命あるものでなければならぬ。一方自覺を有するとしても、尙一方興味あるものであつたならば、それは更に體育として極めて有效なるものであるべきである。此の點に於て遊戯の研究及び奬勵は、今後に於ける體育研究の中心點でなければなるまい。

現今教育の內容改善については、少からぬ問題があるであらうがこゝに詳述する餘裕を有せぬので、遺憾ながら以上の粗略なる記述をもつてこの節を終ることにする。

第十節　結論

吾人は以上約三百頁に亘つて新日本の教育について述べて來た。思ふに明治維新以後我が國諸般の進步は皆著しいものであつたが、教育のことに於ても同樣、かなり顯著なる發達をして來た。明治維新に於て我が國新教育の曙光を見出し、爾後二十數年、日淸戰役に於て我が國が東洋の强國、而も歷史の强國たる支那と戰つて勝利を得るに當り、こゝに教育も著しい躍進を試みた。而も日露戰役に於

て、我が國が世界の強國たる露西亞を破るに至つて、國民の自覺自重は愈々教育をして驚くべき飛躍をなさしめ、その制度に於て、其の思想内容に於て、歐米列强と伍するほどに至つた。

かくて今回の大戰は世界を舉げて總まくりをなし、有りたけのものを投げ出して戰はしめたが、その戰のやうやく終るや、こゝに恐ろしい大戰以上の仕事が起つて來た。それは世界を舉げての大改造である。英も米も佛も、獨も露も、さては支那までが、今まで嘗て見ない急激なる改造に着手して居る。我が國亦懷手して居るべき秋では勿論あるまい。

恐るべき世界改造の大勢

諸般の改造の根本は、人心の改造でなければならぬ。而して人心の改造は一に教育の改造に俟たなければならぬ。こゝに於て我が國今後の改造の根柢は、實に我が國教育の改造になければならぬ。維新以後築き上げられたる我が國の教育も、今や更に日清日露の役に於ける際よりも一層急激なる躍進を試むべき時が來た。かくて新日本の教育は今後に於て愈々その充實を見なければならなくなつた。吾人は國民のすべてが教育の重んずべきを自覺し、教育が國家の發展に對して如何なる地位を占むべきものであるかについて正當なる理解を有せんことを望んでやまない。而して之が實行に當つては、何等の躊躇なく斷行するの明知と勇氣とのあらんことを熱望せずにはゐられないのである。今日は實に教育隆替の分岐點である。而してそれはやがて國家隆替の分岐點である。

教育大躍進の時期

新日本の教育 終

大正九年八月七日印刷
大正九年八月十日發行

新時代叢書 新日本の教育 奥付

編輯者　石川六郎

發行兼印刷者　東京市京橋區日吉町　渡邊爲藏

印刷所　東京市京橋區日吉町　民友社

發行所　東京市京橋區日吉町　振替口座一三一〇〇　民友社

不許複製

新時代叢書

(既刊) **過激派**
果然露國過激派は世界の脅威となれり本書は出版界の脅威にして又た思想界の驚異(品切)

(既刊) **ウイルソン**
世界大戰を左右し世界の外交を左右せしウ氏今如何、米國政界の表裏本書に躍如たり

(既刊) **西伯利亞**
尼港は何處？ サガレン州は何處？ 世界の寶庫にして日本の寶庫たる西伯利亞、最新最正確の記述！

(既刊) **民本主義**
普選も勞働運動も源はデモクラシイ也本書は縱に歷史的に橫に列國に亙りて組織井然、卽是れ改造の原理！

(既刊) **ヴエルサイユ會議**
世界大戰よりも講和會議の方が今後の世界に大なる影響を有す本書は其の精確なる記錄

(既刊) **最近勞働運動**
總ての不合理から解放せんとする文化的使命！ この標榜の下に日本及列國の勞働運動を叙す

(近刊) **食糧問題**
(逐次刊行) **國際聯盟**
最新工業
世界大戰批判
戰後の列强

(一部賣、定價金壹圓六拾錢、郵稅八錢)

1 n
S L E

終